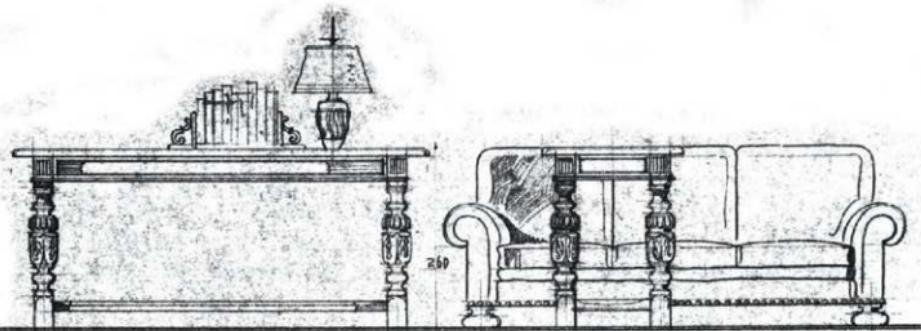


重要文化財綿業会館 家具調査報告書



2022年3月

日本綿業俱楽部
奈良文化財研究所

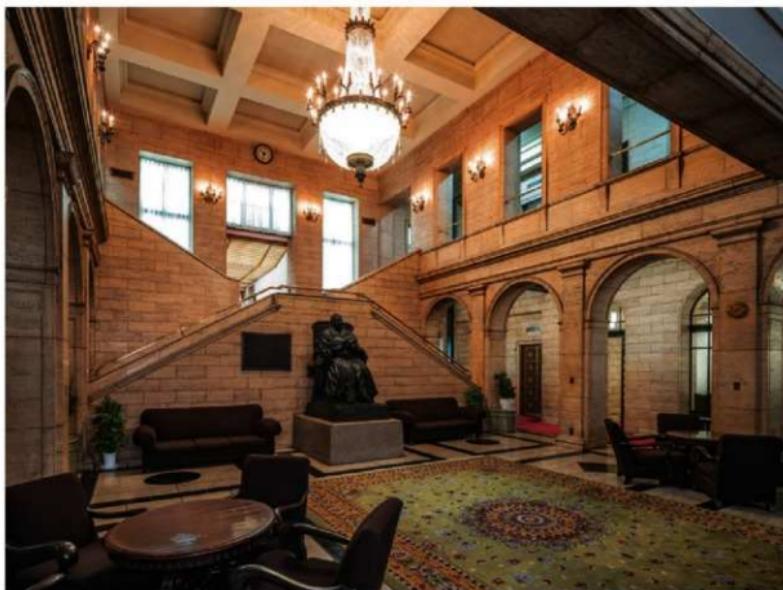
重要文化財綿業会館 家具調査報告書

2022年3月

日本綿業俱楽部
奈良文化財研究所



1 外 観



2 1階 ホール



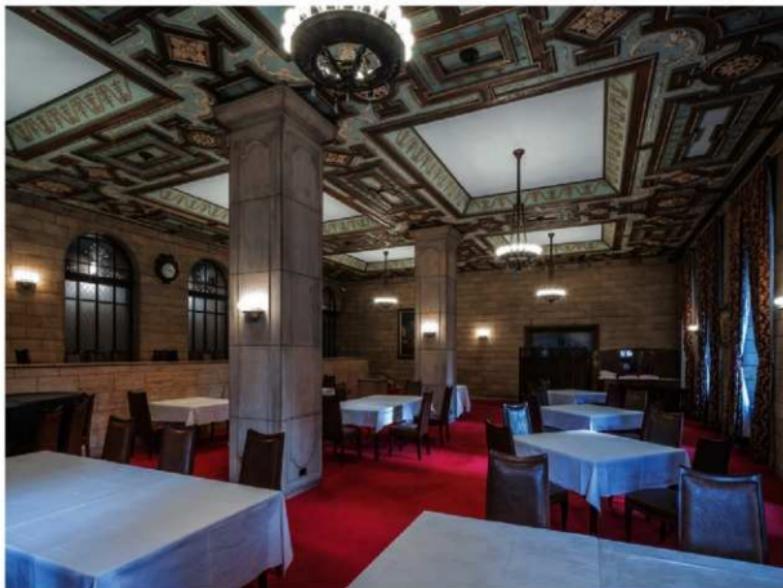
3 2階 貴賓室



4 2階 談話室



5 2階 会議室



6 1階 会員食堂

序

綿業会館の誕生は、玄関正面の銅像「岡常夫氏（東洋紡績（現東洋紡）株式会社元専務取締役）」の強い遺志によるものでした。

昭和2年（1927）に逝去された同氏は、綿業業界への遺言で「日本綿業の中心である大阪に業界人が集える俱楽部会館をつくってほしい」として100万円（時価50億円相当）を遺贈されました。当時の大阪市は「大大阪」と称され、人口・面積・工業出荷額において東京を凌ぎ、世界でも有数の大都市として「東洋のマンチェスター」とも呼ばれていました。岡氏はその大阪に「日本綿業の一層の進歩・発展・繁栄を願って」綿業会館の建設を提言されたわけです。会館は岡氏の遺贈金に業界からの寄付金50万円を加えた150万円（時価75億円相当）で昭和4年に着工・6年に竣工しました。

設計は近代日本を代表する建築家、渡辺節・村野藤吾（後に文化勲章受章）の両氏が担当されています。会館の特徴を一言で表すと「質素な外観・豪華な内装」と言えます。外から眺める会館は街並みに調和したさりげないオフィスビル風の佇まいを見せてています。そのためもあって、初めて会館を訪れる人のほとんどが、内部で目にする装飾の多様さ・豪華さに驚かされます。

玄関ホールはイタリアルネサンス様式、3階談話室は17世紀英國初期ルネサンス風のジャコビアン様式、貴賓室は18世紀英國クイーンアン様式等々、その他各室でいろいろの欧風様式の装飾に接することができます。歴史的には、第二次大戦が会館に二つの存亡の危機をもたらしています。一つは大戦末期の昭和20年3月の大阪大空襲です。この空襲によって大阪中が一面焼け野原にされたなかで、会館はほぼ無傷で残りました。この奇跡はすべての窓に着装されたフランス直輸入の強力な耐火ガラスがもたらしたものでした。もう一つはアメリカ進駐軍による接收です。昭和27年まで7年間続いた接收によって会館内部は荒廃し、接收解除後の回復に半年弱の長期を要しています。そして平成15年（2003）に国の重要文化財に指定され、同19年には近代化産業遺産に認定されています。

この「重要文化財 綿業会館家具調査報告書」は、令和元～2年（2019～2020）の国立文化財機構奈良文化財研究所による調査をもとに作成した、会館所蔵家具の調査報告書です。この調査において、当館地階から現存家具の図面やデッサンが新たに発見され、多くの現存家具が開館当初から存在し続けるものであることも確認されました。日本綿業俱楽部の創立百周年を指呼の間に控えるこの時機に当館家具群の調査結果がこのような文献として出版されることにこのうえない喜びを感じています。

本調査の実施に対して深いご理解を賜りました大阪府教育庁文化財保護課および大阪市教育委員会事務局総務部文化財保護課のみなさま方ならびに調査・原稿執筆にご尽力くださいました奈良文化財研究所の前川歩様をはじめとする研究員のみなさま方に厚く御礼を申し上げます。

令和4年3月

日本綿業俱楽部 理事会長 津村準二

目 次

第 1 章 調査の目的と方法	1
1 調査の目的	1
2 調査の方法	1
3 調査組織と経過	2
4 報告書の作成	2
第 2 章 編業会館と所蔵資料	3
1 編業会館の建物概要	3
2 所蔵図面等資料	6
3 家具図面等資料	8
第 3 章 編業会館所蔵家具の遺存状況とその特質	10
1 家具遺存状況	10
2 家具デザイン	12
3 家具製作者について	13
4 安楽椅子・長椅子等の種別と修理	14
第 4 章 結語	20
1 編業会館所蔵家具の価値	20
2 今後の保存と修理	20

重要家具調査票

巻末図版

図面 K-01

図面 K-02

竣工写真

図表一覧

巻頭図版

- 1 外観
- 2 1階 ホール
- 3 2階 貴賓室

- 4 2階 談話室
- 5 2階 会議室
- 6 1階 会員食堂

挿図

- 図 1-1 配置図
- 図 1-2 外観（備後町通から）
- 図 1-3 所蔵図面等資料調査の様子
- 図 1-4 家具撮影の様子
- 図 2-1 各階平面図（現状、S = 1/400）
- 図 2-2 図面 Z-01
- 図 2-3 図面 Z-10
- 図 2-4 図面 K-05
- 図 2-5 図面 K-13
- 図 3-1 真籠ラベル
- 図 3-2 1階ホール家具配置図（S = 1/150）
- 図 3-3 2階貴賓室（上）・会議室（下）家具配置図（S = 1/150）
- 図 3-4 2階談話室家具配置図（S = 1/150）
- 図 3-5 横浜正金銀行大阪支店貴賓室のクイーンアンスタイルの椅子

（出典：『新建築』1929年9月号、新建築社）

- 図 3-6 パンフットタイプ A
- 図 3-7 パンフットタイプ B
- 図 3-8 パンフットタイプ C
- 図 3-9 パンフットタイプ D
- 図 3-10 パンフットタイプ E
- 図 3-11 パンフットタイプ F
- 図 3-12 パンフットタイプ G
- 図 3-13 パンフットタイプ H
- 図 3-14 1階談話室・喫茶室家具配置図（S = 1/150）
- 図 3-15 麻組・麻糸の破断状況
- 図 3-16 長椅子 2 内部フレーム、側面図（右上）、背面図（左上）、座裏面図（左下）（すべて、S = 1/20）
- 図 3-17 長椅子 2 背面のフレーム
- 図 3-18 座面カバ・スプリング
- 図 3-19 肘掛部

表

- Tab.1-1 調査経過
- Tab.2-1 当初図面等資料

- Tab.2-2 家具図面等資料

巻末資料

- 1 図面 K-01 老階段 ホール
- 2 図面 K-01 豊潤 玉突半室
- 3 図面 K-01 老階段 玉突室
- 4 図面 K-01 豊潤 中食堂
- 5 図面 K-01 豊潤 談話室
- 6 図面 K-01 豊潤 談話室及囲碁将棋室
- 7 図面 K-01 ホール 2階
- 8 図面 K-01 式階 集会室、食堂、小食堂
- 9 図面 K-01 式階 諸談話室
- 10 図面 K-01 豊潤 中食堂
- 11 図面 K-01 式階 特別応接室及会議室
- 12 図面 K-01 三階 食堂及応接兼食堂
- 13 図面 K-01 六階 大食堂
- 14 図面 K-01 六階 大食堂
- 15 図面 K-01 地階室 休憩室
- 16 図面 K-01 地階室 食堂
- 17 図面 K-02 家具設計図
- 18 図面 K-02 ①老階段ホール 丸卓子と肘掛けイス
- 19 図面 K-02 ②一階ホール 安楽イスと長イス
- 20 図面 K-02 ③一階ホール 長卓子
- 21 図面 K-02 ④老階段ホール 肘掛け植木台
- 22 図面 K-02 ⑤一階談話室 中柱取付テーブル
- 23 図面 K-02 ⑥一階談話室 書机と椅子
- 24 図面 K-02 ⑦一階談話室 ベデスタルとロッキングチェア
- 25 図面 K-02 ⑧一階談話室 安楽イスと丸卓子
- 26 図面 K-02 ⑨一階談話室 長椅子と長卓子
- 27 図面 K-02 ⑩一階談話室 肘掛けイスと丸卓子
- 28 図面 K-02 ⑪一階図書室 将棋台と脇卓と肘掛けイス

- 29 図面 K-02 ⑫老階段中食堂 サイドボードと小イス
- 30 図面 K-02 ⑬玉突室 長イスと灰皿台
- 31 図面 K-02 ⑭老階段酒附掛イスと卓子
- 32 図面 K-02 ⑮A 武階談話室 長卓子と長イス
- 33 図面 K-02 ⑯B 二階談話室 長卓子
- 34 図面 K-02 ⑰二階談話室 脇卓子と丸卓子と安楽イス
- 35 図面 K-02 ⑯武階談話室 中柱横飾イスと飾イス
- 36 図面 K-02 ⑯武階談話室 チェスト
- 37 図面 K-02 ⑯武階談話室 丸卓子と飾イス
- 38 図面 K-02 ㉑武階談話室 賦仕用机と小イス
- 39 図面 K-02 ㉒二階中食堂 サービス卓子
- 40 図面 K-02 ㉓二階中食堂 ベデスタル・小椅子
（二階集合室と同型）
- 41 図面 K-02 ㉔二階集合室 衝立・長椅子・長卓子
- 42 図面 K-02 ㉕二階集合室 丸卓子・肘掛け椅子
- 43 図面 K-02 ㉖二階三階小食堂 衝立・サイドボード
（東南隅／分）
- 44 図面 K-02 ㉗二階三階小食堂 ベデスタルと茶卓子と
肘掛け椅子と灰皿台（東南隅／分）
- 45 図面 K-02 ㉘三階小食堂兼応接室 サイドボードと肘
掛け椅子と休憩用椅子
- 46 図面 K-02 ㉙三階小食堂兼応接室 脇付卓子と肘掛けイス
- 47 竣工写真 1階 ホール
- 48 竣工写真 1階 談話室
- 49 竣工写真 2階 談話室
- 50 竣工写真 2階 貴賓室
- 51 竣工写真 2階 会議室
- 52 竣工写真 6階 ロビー

第1章 調査の目的と方法

1 調査の目的

綿業会館¹⁾は、昭和6年（1931）に竣工した俱楽部建築である。設計は渡辺節（渡辺建築事務所）、施工は清水組（現、清水建設）。日本における様式建築の到達点のひとつであるとともに、合理的な設計思想に支えられた昭和初期のオフィスビルの特徴も有し、極めて貴重な建築といえる。平成15年（2003）には国の重要文化財の指定を受けた。

奈良文化財研究所（以下、奈文研とする）では、平成30、令和元年度（2019）にかけて綿業会館の保存活用計画策定の委託をうけ、調査研究をすすめた。調査の中では、建物履歴を明らかにするために、日本綿業俱楽部所蔵の図面調査を実施した。所蔵図面は総数167点におよび、竣工後の修理・改修図面のみならず、当初設計時に作成された図面も多く確認した。また、この図面調査を通じて家具に関する図面も複数点確認することができ、綿業会館の家具についてその様相の一端を知る機会を得た。

調査の目的これまで、綿業会館の建築的な価値については、様々な言及がおこなわれてきたが、綿業会館内に配置された家具の詳細について言及されることは殆どなかった。そもそも、それら家具のうち、どれが渡辺建築事務所がデザインしたものなのか、どれが当初から配置された家具であったのか等、基本的な事項についても判然としない状況であった。

そこで、本調査では現在綿業会館に配置されている家具群について、その制作時期、製作を明らかにし、当初家具を特定することを第一の目的とした。そして、それら当初家具の意匠的、技術的な特徴を考察し、綿業会館の家具が有する歴史的、意匠的価値を明らかにすることを第二の目的とした。

2 調査の方法

調査は、現在綿業会館内に配置されている全ての家具を対象に、以下の方法により実施した。

- 1) 悉皆調査：各室毎に家具配置のプロット平面



図1-1 配置図



図1-2 外観（備後町通から）

- 図を作成し、各家具に固有番号、種別番号を付与し、外形寸法を測り、所見をまとめた。
- 2) 解体調査：1階談話室の長椅子2について、修理工事に立会し、技法および内部仕様について調査をおこなった。
 - 3) 史料調査：平成30、令和元年度に実施した日本綿業俱楽部所蔵の図面調査を引き続き実施し、家具に関わる図面の分析をおこなった。また、大阪府立中央図書館にて家具製作所に関する資料調査を実施した。
 - 4) 写真撮影：大判デジタル撮影を奈文研写真室が、その他の撮影を各調査員がおこなった。

3 調査組織と経過

調査は、奈文研文化遺産部建造物研究室から日本綿業俱楽部へ調査研究依頼を発出しおこなった。調査は奈文研研究員に加え、外部研究者の協力を得て実施した。調査メンバーは以下の通りである。

前川歩、福嶋啓人、目黒新悟

(奈文研都城発掘調査部遺構研究室)

大林潤

(同文化遺産部建造物研究室)

中村一郎、杉本和樹、鎌倉綾

(同企画調整部写真室)

神谷悠実、萩原安寿

(大阪府教育庁文化財保護課)

植木久、櫻井久之

(大阪市教育委員会文化財保護課)

調査の詳細な経過については、Tab.1-1にまとめた通りである。



図1-3 所蔵図面等資料調査の様子

Tab.1-1 調査経過

平成30年度	
4月17日	図面等資料調査（前川、福嶋、神谷）
4月25日	図面等資料調査（前川、福嶋、神谷）
5月16日	図面等資料調査（前川、福嶋）
令和2年度	
7月27日	悉皆調査（～28日、前川、目黒、神谷、萩原、植木、櫻井）
令和3年度	
7月1日	調査打合せ（前川、神谷、萩原、植木、日本綿業俱楽部）
9月1日	悉皆調査（前川、萩原、植木）
9月7日	解体調査（前川、神谷、萩原、植木）
9月11日	資料調査（前川、於 大阪府立中央図書館）
9月22日	解体調査（前川、植木）
11月30日	解体調査報告会（前川、神谷、萩原、植木、日本綿業俱楽部、内外テクノス）
1月12日	写真撮影（～13日、中村、杉本、鎌倉、大林、前川）

4 報告書の作成

報告書は、奈文研文化遺産部建造物研究室長大林潤の指導の下、前川歩が執筆および編集をおこなった。写真撮影者および図面作成、編集補助者は以下の通りである。

巻頭カラーおよび重要家具調査票写真撮影

中村一郎、杉本和樹

図面作成協力、編集補助

西尾尚子、片桐真佐子

1) 線業会館は当初部分を「本館」、昭和37年増築部を「新館」と呼称されるが、本報告書では特記ない限り「線業会館」は「本館」を指す。また剛数の表記も当初の表記に倣った。



図1-4 家具撮影の様子

第2章 締業会館と所蔵資料

1 締業会館の建物概要

A 建物概要

立地環境 締業会館は、大阪市中央区備後町に位置する。船場の中心を南北に通る三休橋筋と東西に通る備後町筋が交差する北東角に建つ。周辺には中規模のオフィスビルが建ち並ぶ。多くは戦後に建設されたものであるが、締業会館と建設時期が近い大正から戦前までの近代建築も周辺には複数遺存しており、当時の都市景観を今に伝える。

建物概要 締業会館は鉄骨鉄筋コンクリート造、地上6階、地下1階建てで、屋上には塔屋が取り付く。建築面積は920m²である。内部は、地下1階から地上2階までに俱楽部主要室を配し、3階から5階までは貸室、6階を大会場とする。塔屋にはゴルフ練習場が設けられ、屋上には紡績神社が置かれる(図2-1)。平成15年(2003)に国の重要文化財(建造物)に指定された。

創立沿革 締業会館は、昭和2年(1927)に亡くなった東洋紡績(現・東洋紡)株式会社専務取締役岡常夫氏の遺言によって同3年に建設が計画された。岡家の遺族からの100万円の寄付をもとに、各関係会社からの50万円の寄付が加えられ、紡績関係者の俱楽部として昭和6年12月に竣工した。

建設経過 締業会館の建設経緯は以下の通りである¹⁾。

昭和3年12月24日：日本締業俱楽部設立許可
渡辺節を建築委員に委嘱

昭和4年3月4日：合資会社清水組工事請負

昭和5年3月16日：現場監督馬場良三嘱託

4月5日：地鎮祭

5月22日：定礎式

昭和6年12月31日：竣工

昭和7年1月1日：開館

昭和8年12月15日：遷座式(紡績神社)

昭和9年：本殿の建設(紡績神社)

昭和9年11月15日：遷座式(紡績神社)

使用・改修履歴 締業会館の竣工後の使用および改修履歴は以下の通りである。

昭和17年5月：鉄柵、シャンデリア、銅像、手摺等の金属製品・革製品を供出

昭和20年7月8日：1、2階を大阪師団管区司令部に貸与

10月18日：地下1階から3階をアメリカ進駐軍C・C・D(民間検閲局)接收
俱楽部事務所を4階に移動

12月26日：4、5階接收

昭和21年10月3日：全館接收

昭和22年3月25日：大阪府との間に維持管理費負担契約が取り交わされる。会館をホテルとして利用。大会場へ間仕切り、各階に配膳室、小部屋は浴室に改造、日本間改造、地階料理店は運転手宿舎、南側に木製屋外避難階段

昭和24年11月11日：PMO(憲兵司令部)、CID(犯罪搜査局)が使用

昭和25年11月1日：寺田合名ビル(岸和田ビル)
に臨時俱楽部開設

昭和27年5月22日：接收解除

6月～9月：修理工事
地下1階グリル、休憩室、1階談話室、喫茶室等改修

昭和27年10月2日：業務再開

昭和28年6月13日：集会室に冷房装置設置

12月23日：昇降機新設

昭和29年3月20日：昇降機新設

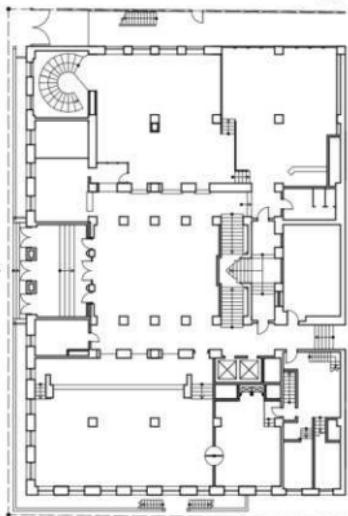
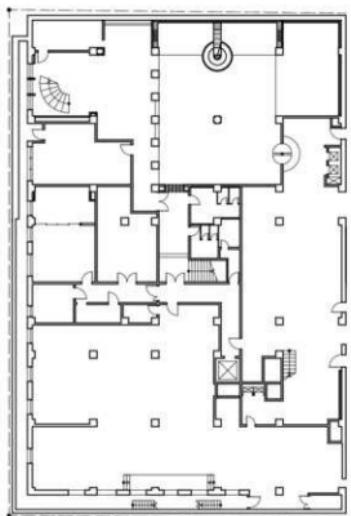
昭和30年12月～：井戸水の冷房使用をやめる。

昭和31年6月27日：クーリングタワーによる冷房装置を設置

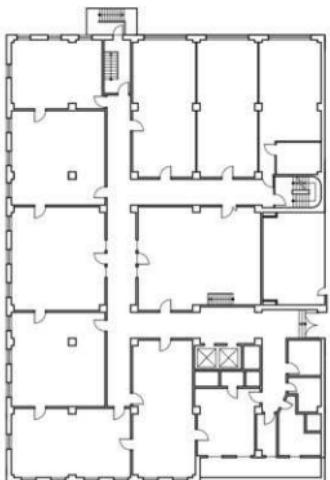
昭和35年頃：2階日本間を洋間に改造、日本間を上階に新設(8畳、6畳)

昭和36年7月18日：新館地鎮祭

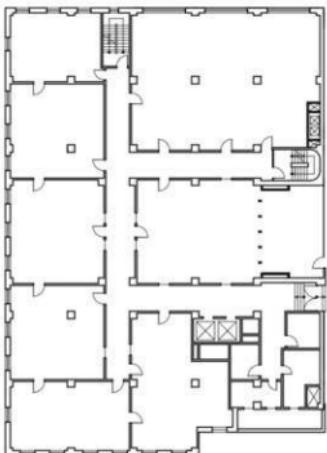
地下1階階段室、機械室、厨房、1階宿直室、守衛室、連絡階段、2階階段室2、3～5階連絡



1階



4階



5階

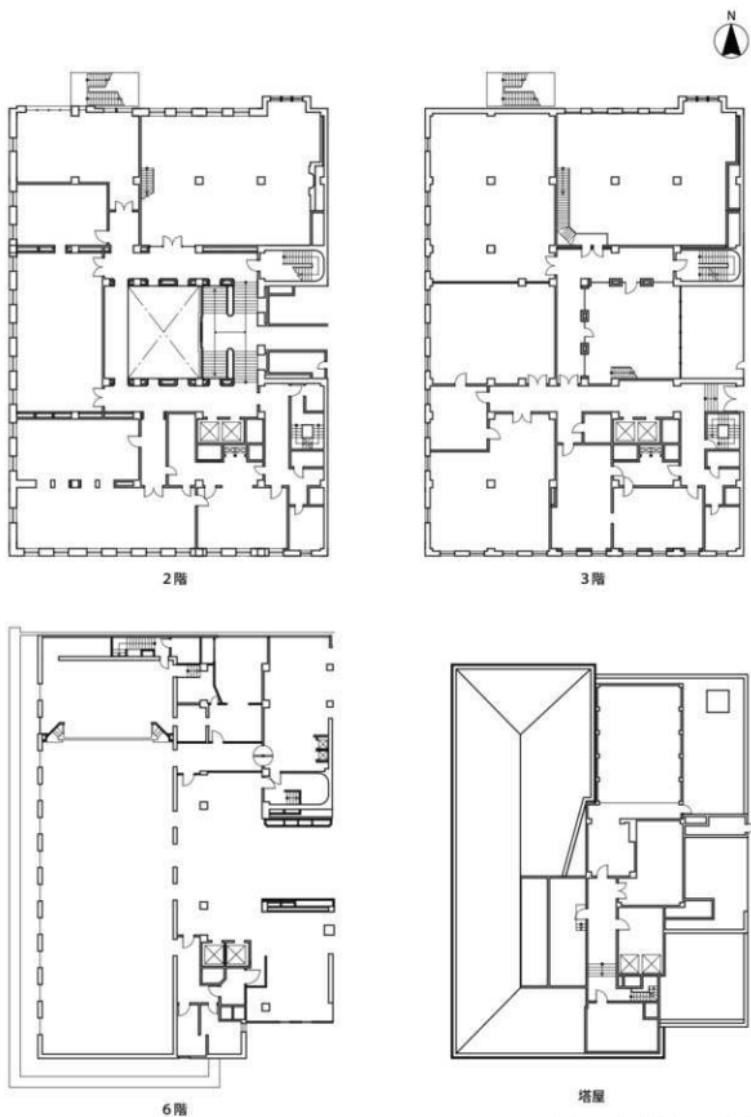


図2-1 各階平面図（現状、S = 1/400）

	階段、6階ロビー、荷物預かり、和室、配膳室等改修
昭和37年10月末	：新館竣工
昭和54年	：各階便所改修
昭和58年	：外壁改修
昭和62年	：エレベーター取替工事
昭和63年	：操作室間仕切り工事
平成2年	：外構フェンス工事 外構鉄物グレーチング 北境界塀改修工事
平成14年	：6階男子便所、地下1階男子便所改修
平成20年	：2～5階男子、女子便所改修

B 文化財的価値

綿業会館の設計は渡辺節（渡辺建築事務所）がおこない、施工は清水組（現：清水建設）が担当した。外観はイギリスルネサンス風で、1階部分はルスチカ風の石張で、2階から上は小口スクランチタイルを芋目地に張る。4階と5階の間にテラコッタによる帯をまわし、5階上部はデンティル付のコニクスをまわし、全体として3層構造の立面構成をもつ。一見簡素な立面であるが、矩形に並べられた窓の窓枠はテラコッタにより各階で変化を受けられ、2・3階にはテラコッタによる彫刻で窓下を飾るなど端正な仕事をみることができる。

内部意匠においては、1階ホールをイタリアルネサンス、2階談話室をジャコビアンスタイル、貴賓室をクイーンアンスタイル、会議室をアンビールスタイル、6階大会場をアダムスタイルにする等々、各室に異なる様々な様式を用いながらも、洗練した一つの建築にまとめ上げている。

平面計画においては、エレベーターや便所、給湯室などのサービス機能を東南部にコンパクトにまとめ、俱楽部主要室および3階から5階は貸室を合理的に配置する。また、設備や施工面においては、各階のダクトスペースと地下機械室のスペース確保、吸音セロテックスタイルを用いた音響設計の実施、ワイヤー入耐火ガラスによる耐火性能の確保、テラコッタやブラスターの使用による施工の効率化等々、極めて先進的な設計思想およびそれを支える

当時先端の技術投入を見て取ることができる。

綿業会館は、戦後すぐにアメリカ軍に接収される。接収解除後の昭和27年および、新館建設時の昭和37年に一部の室の改修を受けるが、全体としては当時の姿をよく残す。

様式主義建築の金字塔であるとともに、合理的な設計思想に支えられた昭和初期のオフィスビルの特徴も有し、極めて貴重であるといえる。現存する昭和初期の渡辺節の建築作品としても重要である。

2 所蔵図面等資料

日本綿業俱楽部では、綿業会館内に当初設計段階の図面や申請書類、その後の改修や新館建設に伴う図面等の資料を所蔵している。ただ、これら資料に関して資料種別やその内容等については把握していない状況であった。そこで、所蔵図面等資料について全点を調査し、その資料種別、作成年代、作成主体等について確認をおこない、リストに取りまとめた。また、これらの資料調査を通じて、次節にて詳述するように家具に関わる図面を複数点確認した。

また、これら図面等資料のうち、綿業会館の建設当初に関わる資料および、その後の履歴を理解する上で重要と思われる資料については、デジタル化をおこなった。

図面等資料概要 図面資料は総数167点を確認した。これら図面等資料のうち作成年代では、建設当初に関わる資料は14点、接収解除直後の昭和27年頃に作成された資料は41点、新館建設時の昭和36年頃に作成された資料は43点、それ以降の改修等時に作成された資料は51点、時代不明が18点に分かれる。作成主体は、渡辺建築事務所のものが99点と大半を占めるが、清水建設等の建設会社や設備会社、昇降機メーカー等の作成した図面も含まれる。

当初図面等資料 当初図面等資料14点のうち、家具関係のものを除くと12点であり、平面図、立面図、断面図といった一般図、室毎の詳細図に加え、申請図、昇降機図面、設計案に関する図面等を確認した（Tab.2-1）。

図面Z-01は、当初の図面が最もまとまって綴ら

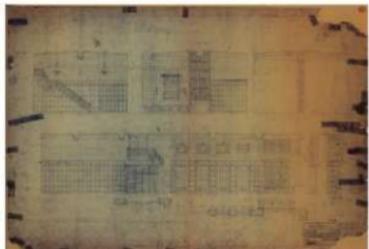


図2-2 図面Z-01

れた資料である。A2横使い、青焼き31枚の図面綴で、昭和27年6月4日と記された図面5枚以外は当初の図面である。主要各室の平面詳細、展開、天井伏、断面詳細図が描かれる。「2カイダンワシツヘンコウ」ではタイルタペストリが追記され、作図日付が1930年7月18日であることから、現場段階にタイルタペストリの設置が新たに考えられたことが確認できる(図2-2)。

図面Z-09、Z-04はそれぞれ申請資料で、図面Z-09には図面を収納した封筒に「昭和五年四月一日建築許可書」と記載がある。図面Z-04は、各図

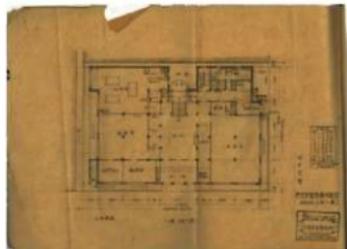


図2-3 図面Z-10

面に「赤線部設計変更」や一部図面に「Aug 13th 1930 ヘンコウ」と記載があり、図面Z-09許可後の変更申請資料であることがわかる。

図面Z-10、Z-11はやや特殊な図面で、日本締業俱楽部への設計提案資料である。図面Z-11は表紙に「第一締業会館設計図」とあり青焼き、A3サイズ6枚の図面綴である。図面Z-10は「第二締業会館設計図」と記載され、トレーシングペーパー鉛筆描きの原図、A3サイズ6枚の図面綴である。いずれの案も最終案とは異なり、渡辺の設計検討過程が垣間みられ興味深い資料である(図2-3)。

Tab.2-1 当初図面等資料

図面番号	資料名称	図面種別	印刷種別	作図年代	枚数	作図主体	備考
Z-01	無記名 (オリジナル意匠図)	計画 意匠	青焼	昭和5年 昭和27年	31	渡辺建築事務所	昭和27年改修時平面図5枚を含む。
Z-02	無記名(各階平面図)	計画 意匠	青焼	昭和6年9月26日	5	渡辺建築事務所	平面詳細図に近い 各室仕上げの記載あり
Z-03	室坪数記入の分 意匠	計画 意匠	青焼	昭和4年 昭和5年	5	渡辺建築事務所	①四階平面図2枚、②2階・3階平面図、③6階屋根平面図、④参階平面図
Z-04	副本 締業会館設計 変更届書	申請 計画 意匠	青焼 その他	(昭和4年6月28 日)、昭和4年11月 7日、昭和4年12 月3日、昭和5年8 月13日	10	渡辺建築事務所	①日本締業会館建築概要、②締業会館建設使用 に関する手書き、③4・5階平面図、④1 階平面図、⑤2階・3階平面図、⑥4・5階平 面図、⑦6階屋根平面図、⑧地階平面変更図、 ⑨背面、締業会館構造調査計算書(一部変更) ※「Aug 13th 1930 ヘンコウ」と記載あり
Z-05	現場行(三通在中) 平面図	計画 意匠	青焼	昭和6年9月26日	9	渡辺建築事務所	①6階・屋根2枚、②4・5階平面図2枚、③ 2・3階平面図2枚、④1階平面図2枚、⑤地 下室平面図
Z-06	無題(各階平面図)	計画 意匠	青焼	昭和6年9月26日	3	渡辺建築事務所	①地下平面図、②一階平面図、③四、五階平面 図、バラ
Z-07	6階リフト上部及 ファンルーム詳細	施工	青焼	昭和6年3月26日	1	清水組	バラ
Z-08	料理場昇降機許可書	申請	青焼	昭和6年6月24日	41	渡辺建築事務所 日本エレベーター 一製造株式会社	(大、料昇四基) 昇降機設置認可申請書一部渡 辺事務所作製の施工図あり
Z-09	副本 締業会館構 造設計図 第一、八六一號昭和 五年四月一日建築許 可書 図面拾一点、届書一 通在中	申請 計画 意匠	青焼	(昭和4年1月10日 昭和4年11月13日 昭和4年11月7日)	6	渡辺建築事務所	南北断面図、西側立面図、東側立面図、北側立 面図、南側立面図、東西断面図、規計詳細図
Z-10	「本館旧資料」内の 第二締業会館設計図	計画 意匠 (鉛筆)	原図	昭和4年4月12日	6	渡辺建築事務所	図面には「第一案」とあり
Z-11	「本館旧資料」内の 第一締業会館設計図	計画 意匠	青焼	昭和4年3月26日	6	渡辺建築事務所	
Z-12	「本館旧資料」内の オーチス控(申請書)	申請 印刷	青焼	昭和6年	60	オーチス	付図16枚

3 家具図面等資料

家具図面等資料の種別 所蔵図面等資料のうち、家具図面等資料は 13 点確認した。そのうち設計当初に作成されたとみられる図面等資料を 2 点、接收解除後の昭和 27 年頃とみられる図面等資料を 8 点、寺田合名ビルの家具図面等資料を 3 点確認した（Tab.2-2）。

当初図面等資料 初当家具図面等資料は図面 K-01 「締業家具配置図」内家具配置図（印）と、図面 K-02 「締業会館家具設計図」の 2 点である。

図面 K-01 は、A2 横使い、青焼き 21 枚、トレー シングペーパー 1 枚の非縦図面。一部図面に渡辺建

築事務所の図面枠を用い、作図日を「1931.12.1」と記す。図面のうち 15 枚は各室毎に家具をプロットした家具配置図であり、地下 1 階から 3 階、6 階に位置する 18 室の家具種別・配置がわかる。これら図面の詳細は第 3 章で述べるが、図面上には、朱で発注先とみられる業者名が追記されている。家具関連は、「大林」、「清水製作所」、「藤原」、「高島屋」、「藤井」の 6 社で、絨毯関連は「支那」、「高島屋」の 2 社である。

図面 K-02 は、A3 横使い、青焼き、表紙付き、29 枚の図面綴。作図者、作図日の記載はないが、その内容から渡辺建築事務所が設計時に作成した図面とみられる。記載家具の対象室は、1 階ではホー

Tab.2-2 家具図面等資料

図面番号	資料名称	図面種別	印刷種別	作図年代	枚数	作図主体	対象家具	備考
K-01	「締業家具配置図」内家具配置図（印）	計画意匠	青焼	昭和6年12月1日 (5記載)	22	渡辺建築事務所	当初家具	①1階中食堂、②3階食堂及接戸兼食堂、 ③1階玉突室、④2階集合会室、食堂・小食堂、 ⑤1階談話室・家具配置及バーカウンター、 ⑥6階食堂、⑦2階談話室、 ⑧6階食堂、⑨地下食堂、⑩1階玉突室平面図、 ⑪2階特別応接室及会議室、 ⑫1階ホール、⑬1階中食堂、⑭2階ホール、 ⑮魚類粗挽及水槽、⑯食器洗、運営物大洗、 ⑰調理台、⑱食器棚、(21)地階休憩室、 (22)1階談話室及開拓野球場室 ※1階玉突室が当初平面
K-02	締業会館家具設計図	計画意匠	青焼	記載なし	織 29	記載なし	当初家具	1階ホール、談話室、開拓室、中食堂、 玉突室、酒場、2階講堂、中食堂、集会室、2・3階小食堂、3階応接室
K-03	昭和 27 年本館内装改修	計画意匠	白焼	昭和27年3月5日 昭和27年3月12日 昭和27年3月18日 昭和27年7月29日	12	渡辺建築事務所	昭和 27 年頃家具	家具・敷物配置図あり
K-04	無題（家具姿図）	計画意匠	青焼	昭和27年	1	渡辺建築事務所	昭和 27 年頃家具	各階の家具姿図が記載、配置図に貼り込んだ元図
K-05	家具配置	計画意匠	青焼	昭和27年7月29日	2	渡辺建築事務所	昭和 27 年頃家具	①家具敷物配置図 2・3 階、②家具敷物配置図地階・6 階
K-06	締業会館家具敷物配置図	計画意匠	青焼	昭和27年7月29日	1	渡辺建築事務所	昭和 27 年頃家具	家具新旧記載
K-07	締業会館家具配置表（家具修理及追加新調その他要）	その他	青焼	(昭和27年)	織 7	渡辺建築事務所	昭和 27 年頃家具	
K-08	家具配置図（改装後）	施工意匠	青焼	昭和27年7月29日	5	渡辺建築事務所	昭和 27 年頃家具	家具敷物配置図 1 階、2・3 階地階、6 階空図
K-09	「本館旧資料」内「無題」（家具配置図等）	計画意匠	青焼	昭和27年	6	渡辺建築事務所	昭和 27 年頃家具	①地下調理場備品財産高、②各階膳室備品財産高、③家具敷物配置図 1 階、④家具敷物配置図 2・3 階、⑤家具敷物配置図 6 階、⑥地下食堂天井伏図、バラ
K-10	「本館旧資料」内の締業会館改修工事	施工意匠	青焼	昭和27年3月	10	渡辺建築事務所	昭和 27 年頃家具	階段平面図、1 階平面図、2・3 階平面図、 4・5 階平面図、6 階・屋上階平面図、 地階食堂・休憩室詳細図、1 階談話室詳細図、 2 階食堂及集合室詳細図、裏玄関通り・電話交換室詳細図、(各室家具図)
K-11	テラダゴウメイビル平面図	計画意匠	青焼	昭和9年	1	渡辺建築事務所	寺田合名ビル家具	バラ
K-12	無題（家具設計図・配置図）	計画意匠	青焼	記載なし	5	記載なし	寺田合名ビル家具	①無題、②開拓野球場設計図及配置図、 ③荷物預造作、④会議室設計図及配置図、 ⑤休憩室設計図及配置図、「藤原本工」 と記載あり。バラ
K-13	岸和田ビル二階平面図	計画意匠	原図 (鉛筆)	記載なし	2	記載なし	寺田合名ビル家具	

ル、談話室、囲碁室、中食堂、玉突き室、酒場、2階では談話室、中食堂、集会室、小食堂、3階では小食堂、小食堂兼応接室の計12室である。家具の種類は、椅子、卓子、飾棚など60種類におよぶ。家具については、主に正面図・側面図が描かれ、一部平面図と配置図も載る。細部意匠まで描き込まれるも、寸法の記載は外形など最低限であり、各家具のイメージを伝えるために作られたものとみられる。**昭和27年頃図面等資料** 戦後米軍に接收された後、昭和27年の接收解除の際に、再入居のために検討・作図された家具図面等資料が8点残っている。

図面K-05は、A2横使い、青焼き、非縦2枚の図面である。2階、3階、地下1階、6階の主要室の家具配置図、家具姿図、家具数量表が記され、旧品か新調品かが特記される。図面K-04、K-06、K-08等も同様の内容が記されている(図2-4)。

図面K-07は、「締業会館家具配置表(家具修理及追加新調ノ概要)」と表紙に記された資料で、A4横使い、青焼き、計7枚の縦である。表題のとおり、各階主要室に配置する家具について、その種別、数量、修理内容、旧品・新調品の区別が記されている。末で追記がなされ、室名の横に「高」、「内」、「鐘」



図2-4 図面K-05

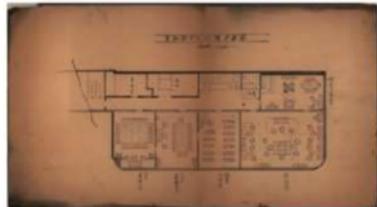


図2-5 図面K-13

等の記載が確認できる。これらの表記は修理業者を表すものとみられる。また、表紙には7項目の特記事項が記され、家具修繕の方針が示される。**寺田合名ビル図面等資料** 戦後米軍に接收された際に、締業俱楽部の業務を再開するために、昭和25年11月に寺田合名ビルに臨時俱楽部が開設される。この移転に際し作成された家具図面等資料を3点確認した。寺田合名ビルは昭和11年に竣工したビルで、締業会館と同様に渡辺筋が設計したものである。

図面K-11は、A2横使い、青焼き、非縦1枚の図面である。「1934.12.6」と作成日が記され、寺田合名ビルの設計時の図面とみられる。この図面の上に朱書きで家具のレイアウトがスケッチされ、移転に際し検討のために使用されたとみられる。

図面K-13は、A3変形横使い、ケント紙に鉛筆で作図の上着色されたもので、非縦2枚の図面である。寺田合名ビル2階の平面図に臨時俱楽部の諸室が配され、家具レイアウト案が描かれている。このレイアウト案からは、臨時俱楽部が「事務室」、「一号集会室」、「二号集会室」、「囲碁・将棋室」、「談話室」、「喫茶及食堂」の6室で業務をおこなっていたことがわかる(図2-5)。

図面K-12は、A2横使い、青焼き、非縦5枚の図面である。作図者、作図日の記載はないが、一部図面の右下に「藤原本木工」と記され、藤原本木工が作図したものとみられる。図面に記載された室は、「囲碁将棋室」、「荷物預所」、「会議室」、「休憩室」、室名不明の5室である。家具の配置図・正面図・側面図が描かれ、14種類の家具形状がわかる。家具プロット図として描かれた平面図は締業会館ではなく、詳細は異なるが寺田合名ビルの平面とみられる。寺田合名ビルへ移転する際に作られた図面とみられ、ここから移転時に新規で家具を製作していた可能性が指摘できる¹⁾。

1)『日本締業俱楽部50年誌』(社団法人日本締業俱楽部、1982年)を参照した。

2)『昭和初期の俱楽部建築における家具の様相』(奈良文化財研究紀要2020)奈良文化財研究所、2020年において、図面K-12は締業会館当初家具を記した図面の可能性がある旨報告したが、内容の精査をおこない本報告の内容に改めた。

第3章 締業会館所蔵家具の遺存状況とその特質

1 家具遺存状況

所蔵家具概況 締業会館に現在所蔵されている家具のうち、今回悉皆調査を実施した貸室を除く各室に配置されていた家具総数は934点で、種別は277種であった。このうち当初家具とみられる家具は総数211点で、その種別は52種である。階別でみると、地下1階が総数1点、種別1種、1階が総数34点、種別11種、2階が総数124点、種別33種、3階が総数2点、種別2種、6階が総数50点、種別5種になる。

また、家具には、真鍮のラベルが取り付けられているものが多く確認できた(図3-1)。ラベルにはそれぞれ固有番号が記され、頭にAからGまでのアルファベットが付き、それに続き最大3桁の数字が付与される。頭のアルファベットと当該家具が当初配置された室の階数には関係性がみられ、Aを1階として、順次アルファベットを階数に対応させ、Fを6階、Gを地下1階に対応させていたとみられる。このラベルが取り付けられた時期は不明であるが、戦後以降に配置された家具には取り付けられていないことから、建設当初から戦前の間に取り付けられた可能性が高い。

家具製作時期の判定 家具の制作時期については、以下の通り判定をおこなった。まず、当初家具と判断した根拠基準は、①図面K-02に記載、②竣工写真に写る、のいずれかを満たす場合とした。また、真鍮のラベルが付与されたものは当初家具の可

能性が高いと判断し、「重要家具調査票」上では「当初カ」と記載した。

図面K-12は先述したとおり、戦後接収時に寺田合名ビルへ移転する際に製作されたものと考えられるため、ここに記載の家具は昭和25年の製作と判断した。

図面K-04、K-05、K-08は接収解除時に再入居のために作成されたものであるため、ここに記載された家具は、昭和27年時点では遅くとも配置されたものとみなすことができる。よって、これら図面にのみ記載が確認できた家具は、建設当初以降接収解除までに用意された家具と判断し、「重要家具調査票」上では「当初から昭和27年」と記載した。主要室の遺存状況は以下の通りである。

1階ホール 1階ホールでは、総数17点、7種の当初家具を確認した。その内訳は、長卓子(No.1-1)が2卓、丸卓子(No.1-7)が2卓、長椅子(No.1-5)が2脚、肘掛椅子(No.1-6)が8脚、衝立(No.1-2)が1台、腰掛け(No.1-4)が2脚、植木台(No.1-3)が2台である(図3-2)。図面K-01および竣工写真をみると、当初は丸卓子がさらに2卓、安楽椅子が4脚配置されていたことがわかる。長椅子と肘掛椅子の張地が張り替えられている他は、すべての家具において改造や補修などではなく、保存状態も良好である。

2階貴賓室 2階貴賓室では、総数20点、8種の当初家具を確認した。その内訳は、長机(No.2-24)が1卓、椅子(No.2-25)が4脚、肘掛椅子(No.2-23)が10脚、書記机(No.2-27)が1卓、書記椅子(No.2-28)が1脚、長卓子(No.2-26)が1卓、卓子(No.2-30)が1卓、花台(No.2-29)が1台である(図3-3)。肘掛椅子の座裏には「62.3.9」、書記椅子の座裏には「S60/8/20」の記載があり、それぞれの時期に張地が張り替えられたとみられる¹⁾。その他は、改造や補修はなく、保存状態も良好である。

2階会議室 2階会議室では、総数52点、6種の当初家具を確認した。内訳は、肘掛椅子(No.2-1)25脚、テーブル(No.2-2)5卓、花台(No.2-4)4台、



図3-1 真鍮ラベル

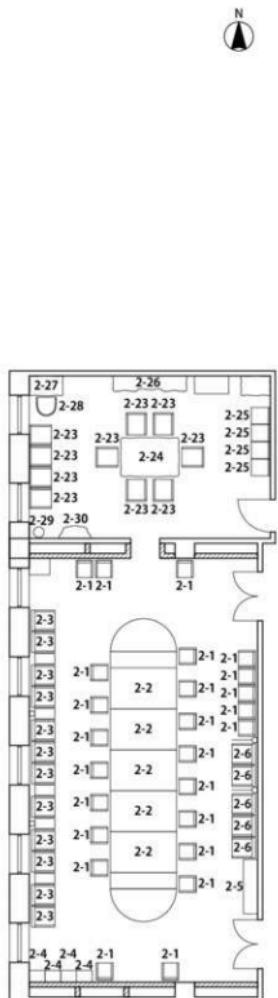


図 3-3 2階貴賓室(上)・会議室(下)
家具配置図(S=1/150)

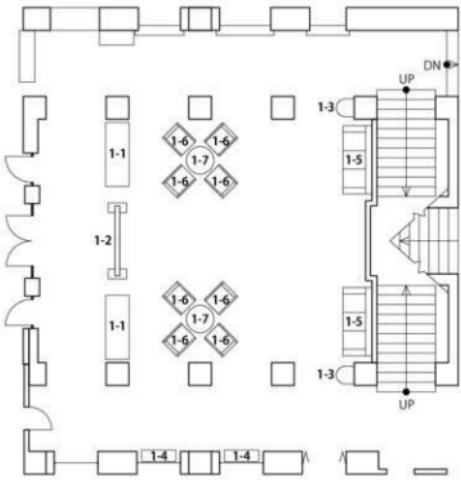


図 3-2 1階ホール家具配置図 (S = 1/150)

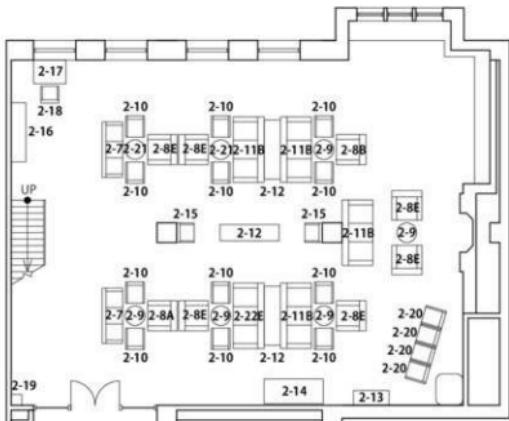


図 3-4 2階談話室家具配置図 (S = 1/150)

安楽椅子（No.2-3）12脚、肘掛椅子2（No.2-6）が5脚。サイドボード（No.2-5）が1台である（図3-3）。図面K-01、竣工写真では肘掛椅子とテーブル、花台のみ確認でき、当初配置されていた家具は全て遺存していることがわかる。その他の家具は別室から後に持ち込まれたものとみられる。サイドボードは当初3階小食堂に配置されていたとみられる。安楽椅子はNo.1-6（1階ホール）と、肘掛椅子2はNo.2-8（2階談話室）と同形状であるが、当初どの部屋に配置されていたかは不明である。

2階談話室 2階談話室では、総数46点、14種の当初家具を確認した。内訳は、背付長椅子（No.2-7）2脚、肘掛椅子（No.2-10）8脚、円卓子（No.2-9）5卓、安楽椅子（No.2-8A,B,E）12脚、長椅子（No.2-11）4脚、長卓子（No.2-12）3卓、飾棚（No.2-13）1台、チェスト（No.2-14）1台、飾肘掛椅子（No.2-15）2脚、長卓子2（No.2-16）が1卓、書記机（No.2-17）1卓、書記椅子（No.2-18）1脚、茶卓子（No.2-19）1卓、肘掛椅子2（No.2-20）が4脚である（図3-4）。図面K-02、竣工写真において確認できる折畳式の飾椅子、大丸卓子、ロッキングチェアといった一部家具を欠くが、当初配置された家具がほぼ全て遺存する。また、後に別室から持ち込まれたとみられる家具も散見された。図面K-01および竣工写真をみると、安楽椅子は当初6脚のみ配置されており、戦前までに別室から2脚移動されたとみられる。詳細は後述するが、当初から談話室に配置されていた安楽椅子はEタイプの6脚と考えられる。書記机は図面K-02および竣工写真から、当初は1階談話室に配置されていたものとみられ、書記椅子は竣工写真から、当初は2階集会室のものであったとみられる。茶卓子はNo.2-34（2階控室）、No.3-2（3階俱楽部事務室）と同形状であり、当初は2、3階小食堂用のものであった。肘掛け椅子2は竣工写真から、当初は1階談話室用に置かれていたとみられる。また、長椅子2は、竣工写真や図面K-02では確認できないが、図面K-05には描かれており、遅くとも昭和27年までには当室に置かれていたと考えられる。さらに、図面K-01での長椅子の数量は5脚であること、また後述するようにバン

フット形状が当初家具で確認できる形状であるため、当初から配置されていた可能性が高いと考える。

6階ロビー 6階ロビーでは、総数49点、4種の当初家具を確認した。内訳は、肘付椅子（No.6-1）36脚、小卓子（No.6-2）9卓、肘掛長椅子（No.6-3）2脚、卓子（No.6-4）2脚である。当初はこれに加え、ラウンジチェアと円卓子が配置されていたが現在は欠落している。肘掛け椅子と肘掛長椅子の張地が張り替えられている他は改造や補修などではなく、保存状態も良好である。

2 家具デザイン

当初家具の多くは図面K-02において代表的に示されるように、設計時において渡辺建築事務所がデザインしたものであったと考えられる。先述したように綿業会館主要室内の装飾は、室内に様々な様式が使われ、そのインテリアデザインが実践されている。そして、その内部に配される家具についても室内の様式に従いデザインがおこなわれている。以下、主要室毎に家具デザインの概要をみてみたい。

1階ホール 1階ホールはイタリアンネオクラシックの室内装飾をもつ。家具においても、長卓子（No.1-1）や円卓子（No.1-11）に特にその特徴を表す。長卓子は渦巻に彫刻されたカルトゥーシュ形の脚板を両端にいれ、中央に楕円形のカボションが配される。脚部は獣脚のパウフットで装飾される。円卓子も同様の意匠をもち、脚部はトリポッドとし、イタリアンネオクラシックの雰囲気をよく表す。

植木台（No.1-3）、腰掛（No.1-4）の装飾は控えめであるが、グリーンマーブルの大理石が、トラバーチンによる淡色の空間に彩りを与えるアクセントとなっている。

2階貴賓室 貴賓室はクイーンアンスタイルでまとめられ、直線を主として構成された室内に、天井や家具が軽やかな曲線を多用してつくられる。肘掛け椅子（No.2-10）、椅子（No.2-25）、書記椅子（No.2-28）は、いずれもカブリオールレッグをもち、椅子の背面はクイーンアンスタイルに特有なアーンスプラットで飾られる。卓子（No.2-30）、長机（No.2-24）、書

記机（No.2-27）も全てカブリオールレッグでつくられ、卓子はエプロンをもつ。

いずれの家具もクイーンアンスタイルの雰囲気をよく表すが、特徴的なのが、椅子、机、卓子の足元にH型およびX型とO型を組み合わせたパロック風の貫を有する点である。オランダやドイツにおけるロココではパロックとの混在が認められるため、貫の採用は、後述するように本家具を製作した清水製作所の代表であった清水米吉が、室内装飾をドイツで学んだ影響とも考えられる。一方、渡辺建築事務所が設計し、昭和2年に竣工した横浜正金銀行大阪支店貴賓室の家具でもクイーンアンスタイルの椅子の足元に同様のH型の貫を確認できる（図3-5）。この製作は旭家具装饰が行い、そのデザイン指導を渡辺設計事務所の村野藤吾が行ったことが述懐されている²³⁾ことから、ロココとパロックの混在は渡辺建築事務所独自のデザイン手法であった可能性も考えられる。

2階談話室 2階談話室はジャコビアンスタイル



図3-5 横浜正金銀行大阪支店貴賓室のクイーンアンスタイルの椅子

（出典：『新建築』1929年9月号、新建築社）

の室内に合わせ、家具のデザインがおこなわれる。椅子や卓子には挽物が多用され、特に長卓子（No.2-11）にはメロンバルブが使われ、全体的に重厚な雰囲気を有する。一方で、ジャコビアンスタイルに典型的なボビンレッグやシュガーツイストなどは使われず、落ち着きがある。チェスト（No.2-12）は渦巻の彫刻やカボション、パウフ等を有し、その形状もイタリアルネサンスのデザインが採用されている。現存はないが、当初配置されていた折畳式の飾椅子も、竣工写真や図面を見る限り、同様にイタリアルネサンス風にデザインされていたようである。単一のスタイルでまとめるのではなく、あえて異なる様式を採用している点は興味深い。

2階会議室 会議室は一軒してアンビルスタイルでまとめる。肘掛け椅子（No.2-1）は、脚をテーパードレッグとしてネオクラシズムの雰囲気をもつが、溝彫りや先端の装飾もなく、抽象化されたデザインが採用されている。ただ、座面と背面、肘掛けの曲線が有機的に一体化した全体のフォルムは秀逸で、締業会館の中で最も優れたデザインを有する椅子のひとつともいえよう。テーブル（No.2-2）はクラシカルなサーベル型の脚が採用されるが、装飾は簡素である。花台（No.2-4）も装飾は控え目であるが、肘掛け椅子同様に曲線の処理が見事で、軽やかな印象を与える。

3 家具製作者について

図面K-01 先述したように、図面K-01には各家具および絨毯がプロットされ、その図上に発注先となる家具業者、締業者名が朱書きされている。図面には家具業者として「大林」、「藤原」、「清水製作所」、「高島屋」、「藤井」の5社の記載を、締業者として「高島屋」、「支那」の2社の記載を確認できる。「大林」は、大阪を中心に内装・家具製作分野で定評を得ていた大林組工作所とみられる。「藤原」は図面K-12に記載があった藤原本工とみられるが、会社詳細は不明である。「清水製作所」は合資会社大阪清水製作所、「高島屋」は高島屋家具装飾部とみられ、ともに室内装飾、家具製作において当時名を馳せた会社である。「藤井」は詳細不明である。

各会社の家具種別をみると、大林組工作所は1階ホール、談話室の家具一式、大阪清水製作所は2階貴賓室、会議室の家具を担当する。藤原本工は1階会員食堂、2、3階食堂、小食堂のテーブルを、高島屋は地下1階の休憩室家具一式、食堂のテーブルを、藤井は6階大会場の家具一式を担当する。加えて、先述したように図面K-03の記載内容から、藤原本工が寺田合名ビル移転時の家具を担当していた可能性が高いことも指摘できる。

これより、高い意匠性が求められる室の家具を大林組工作所と大阪清水製作所が担い、高島屋は綿業会館において唯一モダンな設えをもつ地下諸室の家具を担当し、藤原本工はテーブルや収納家具など実用性が求められる家具を担っていたことがわかる。

図面K-01には、1階会員食堂の椅子に「注文モノ」との記載も確認できる。また、竣工時の綿業会館の様子を知る関係者による回顧録では、スペインから取り寄せた椅子があったとの発言もあり³⁾、既製家具を納入した部分も多くあったと推測される。一方、貴賓室等の家具も輸入品であったと口伝により考えられていたが、上記図面K-01の記載内容および渡辺節による「貴賓室などに苦心して作った椅子卓子など立派な家具は進駐軍将校が充分理解して大切に使ってくれたので現在の通り残っている。」⁴⁾との発言が残っており、大阪清水製作所により製作されたものみて間違いないだろう。

大阪清水製作所 大林組工作所、大阪清水製作所の製作した家具は意匠、品質ともにレベルが高く、特に大阪清水製作所による2階貴賓室、会議室の家具はその中でも傑出した出来である。清水製作所は、ドイツで家具室内装飾を学んだ清水米吉により明治40年(1907)に設立された製作所である⁵⁾。清水は明治19年から、エンデ&ベックマン建築会社の給費生として3年間ドイツベルリンに留まり、建築および家具製造法を学んだ。帰国後は内務省土木局臨時建築掛、三井銀行本店臨時建築掛等を経て、明治40年に独立する。

独立後も三井本館、三井銀行をはじめ三井家関係の建築の家具、室内設備を殆ど手掛けるなど、様式家具製作の分野においては当時屈指の製作所であつ

た。清水米吉は大正12年(1923)1月に逝去するも、清水製作所は昭和7、8年を最盛期として昭和11年まで続く。一方、綿業会館の家具を製作した大阪清水製作所がいつ設立されたかは不明であるが、大正10年竣工の大阪市庁舎の家具装飾工事を「清水米吉大阪出張所」が請けており⁶⁾。これ以降に別会社として独立したとみられる。また清水製作所が昭和11年に廃業したのも大阪清水製作所は続いており、少なくとも昭和29年までは存続していたことが確認できる⁷⁾。

大林組工作所 大林組は、明治38年に木材の品質管理とコストダウンを図るために、大林組製材工場を発足させる。その後、大正11年には大林組工作所と改称された。この大林組工作所は家具、内部造作工事分野における当時屈指の会社として発展していくことになる。

大林組と渡辺節との関係は古く、渡辺が鉄道院西部鉄道管理局で京都駅の改築を担当していた大正2年まで遡る⁸⁾。京都駅の内部造作材に桜の使用を指定するも、非常に狂いややすく、材の乾燥に苦心したらしい。ここで大林組が仮設の木材乾燥設備を整備し、狂いのない木材乾燥に成功し、渡辺の信頼を得ることになる。これ以降渡辺は、内部造作工事についてはほぼ全てを大林組工作所に頼むようになる。

綿業会館においても、「造作にても専門の会社が少なく内外木材という会社が本格的に造作していく、ベニヤの研究もしていたので、同社へ造作の一切をまかせた。」⁹⁾と渡辺が述べるように、大林組工作所が内部造作を担当した。地下1階グリルや休憩室、1階開幕将棋室等の壁面に塩地ベニヤを多用していたが、現状遺存しているのは残念ながら一部のみである。

また、綿業会館竣工間際の昭和6年10月に大林組工作所は、当分野をさらに発展させるため内外木材工芸株式会社として独立会社となつた。

4 安楽椅子・長椅子等の種別と修理

安楽椅子・長椅子等の種別 安楽椅子(No.1-13、2-8)、長椅子(No.1-5、1-14、2-11)、長椅子2(No.1-12、2-22)は基本的な形状は同じであっても、前脚のバ



図3-6 パンフットタイプA



図3-10 パンフットタイプE



図3-7 パンフットタイプB



図3-11 パンフットタイプF

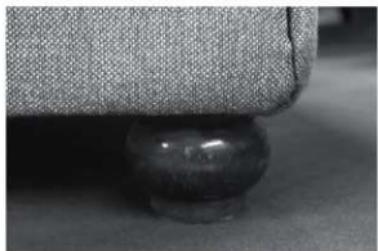


図3-8 パンフットタイプC



図3-12 パンフットタイプG

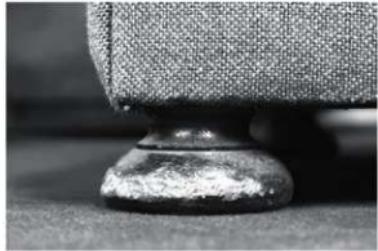


図3-9 パンフットタイプD



図3-13 パンフットタイプH

ンフット形状が複数種類確認できることから、製作者や製作時期が異なる可能性が考えられる。以下、この点を細かに確認したい。

まず、パンフットの種類については、安楽椅子、長椅子、長椅子2に使用されているものは合計8タイプ(以下A～Hの記号を付与する)があることがわかった(図3-6～13)。このうち、安楽椅子にはAからEの5タイプ、長椅子にはA、B、Gの3タイプ、長椅子2にはD、E、F、Hの4タイプが使用されている。

安楽椅子は、現状では1階談話室・喫茶室に11脚、2階談話室に8脚配置される(図3-14)。当初の配置状況を確認すると、1階談話室に6脚、1階ホールに4脚、2階談話室に6脚置かれており、部屋により当初から増減があることがわかる。図面K-05および図面K-07から、昭和27年俱楽部再開時点の状況を確認すると、1階談話室には寺田合名ビルより4脚移設するとの記載があり、旧品と合わせて計11脚の安楽椅子が配置されている。1階ホールには安楽椅子は配置されていない。また、2階談話室は8脚配置されおり、すべて旧品との記載がある。これより、1階談話室では、竣工以降昭和27年までに別室から1脚が加えられていたこと、昭和27年に寺田合名ビルで使われた4脚がさらに加え

られたことがわかる。すなわち、この寺田合名ビルから運ばれた4脚は少なくとも当初の家具ではないと判断できる。また、2階談話室では、竣工以降昭和27年までに別室から2脚が加えられたことがわかる。Eタイプの安楽椅子が6脚あることから、これが当初談話室に配置されていたもので、A、Bタイプの2脚が後に加えられたものとみられる。1階ホールの安楽椅子4脚がすべてなくなっているため、この椅子が移動されたものとも考えられる。

先に確認した安楽椅子のパンフットタイプについて、竣工写真からは、当初から存在していた種別をいくつか特定することができる。それは、A、B、Cの3タイプである。1階談話室にはA～Cの他は、Dタイプが置かれるが、この数量は4脚である。また、Dタイプは他と比べ特異な形状を有する。断定はできないが、このDタイプの安楽椅子は、寺田合名ビルから移設された可能性が高いと考える。

次に長椅子、長椅子2をみてみる。現状では1階談話室・喫茶室に長椅子は3脚、長椅子2は5脚配置されている。当初の状況は、長椅子2が4脚配置されるのみで、長椅子は配置されない。昭和27年の状況を、図面K-05および図面K-07から確認すると、長椅子は3脚、長椅子2は4脚配置されてお

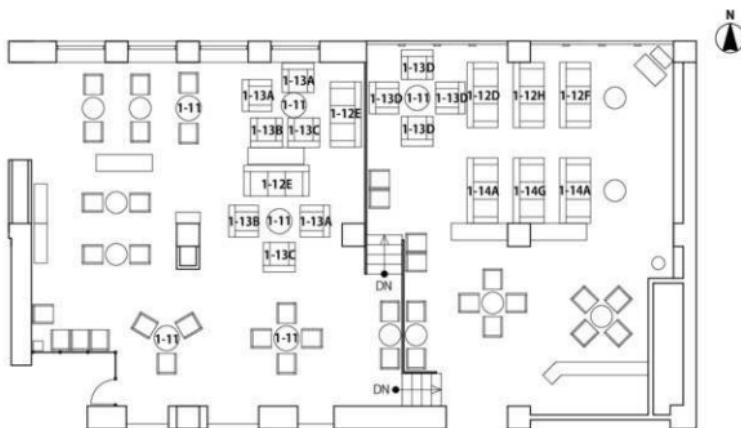


図3-14 1階談話室・喫茶室家具配置図 (S = 1/150)

り、すべて旧品と記載される。よって、竣工以降昭和27年までに、別室から長椅子を3脚移設し、昭和27年以降に長椅子2を1脚加えたものとみられる。よって、少なくともこの長椅子2の1脚は、当初家具ではないと判断することができる。1階談話室内にある長椅子2のパンフットはD、E、F、Hの4タイプであるが、このうち、E、F、Hは当初からある種別であることが確認できる。よって、Dタイプの長椅子2が昭和27年以降に加えられた可能性が高いと指摘できる。

長椅子2の修理概要 長椅子2（No.1-12F）は座面が沈み込み、修理の必要が生じた。修理は2021年9月1日から実施し、11月1日に完了した。修理の実施は、この長椅子2を竣工当時製作した大林組工作所の後継会社である株式会社内外テクノスが元請けとなり、株式会社大谷賢三商店、株式会社サンダーサービスの3社によりおこなわれた¹⁰⁾。

修理作業の過程で、座面の沈み込みは力布劣化による弛み、スプリングを連結していた麻紐の破断および力布と連結していた麻糸の破断によることが判

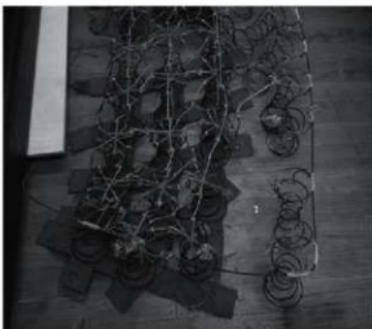


図3-15 麻紐、麻糸の破断状況

明した（図3-15）。また、座面力布の破断や劣化、張地下地のウレタンのヘタレ等の不具合箇所も確認された。

よって修理においては、大きくは当初構造や素材を保存することを方針としながら、主に以下箇所の仕様変更、新材への置き換えをおこなった。

・背面力布受け部材の新規取付け（左右2箇所）

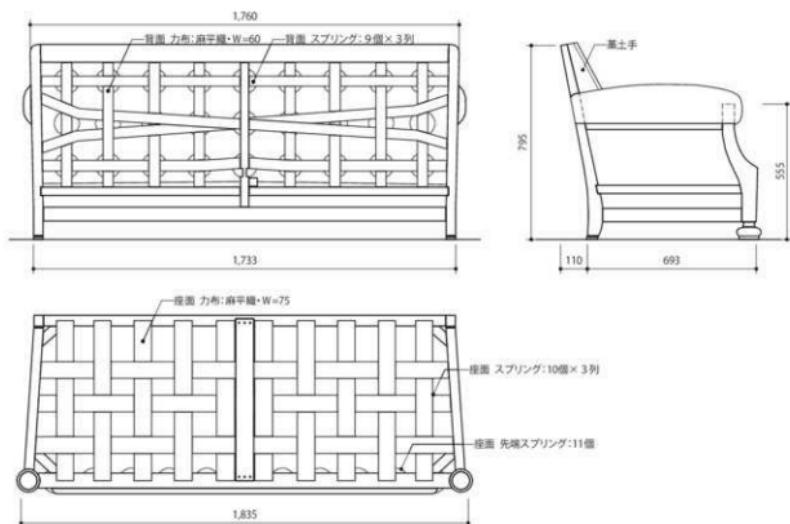


図3-16 長椅子2内部フレーム 側面図（右上）、背面図（左上）、座裏面図（左下）（すべて、S=1/20）

- ・肘掛け補強部材の追加（左右2箇所）
- ・座面スプリングをSバネ式木製座面（補強部材、木下地合）に変更
- ・背、肘部分のジュート麻生地張替え
- ・背、座、肘部分のウレタン取替え
- ・張地張替え
- ・底面への黒色不織布の張付け

なお、今回の修理内容を記載した木札を座面布張り前に木下地へ取り付けた。また取替えをおこなった当初座面スプリングは、将来の修理での使用も考え、日本綿業俱楽部で保存することになった。

長椅子2の構造 修理により、長椅子2内部の構造が詳細に判明した（図3-16）。以下その概要を述べる。笠木、背枠、後脚、座枠、肘枠といったフレームは全てナラ無垢材で作られる。笠木、後脚、座枠等には規則的に並んだ鉄跡が確認でき、また笠木上面には見切り用の切込みの加工もなされ、当初は革張りであったことを裏付ける（図3-17）。座面は最底部に麻平織の力布（幅75mm）をもち、縦横とも約15cm間隔で十文字に張る。力布端部は座枠に釘打ちされる。力布の上部に座面用のスプリングを置き、スプリングと力布を麻糸で縫い、スプリング同士は麻紐で結束する。スプリングは、最前面が11個、その他は1列10個が並び、計4列、41個が配置される。スプリングの鋼線径は ϕ 3.13～3.26mmで、らせん数は7巻である。座面の外周部には丸鋼（ ϕ 5.0）が廻り、スプリングとは麻紐で連結される（図3-18）。スプリング上面はジュートで覆われ、綿を敷き、張地が張られる。最上部に、ウレタンを内包したクッションが置かれる。

背面も同様に、最背面に麻平織の力布（幅60mm）を約16cm間隔で十文字に張り込むが、長手方向中央部はX状に2本の力布を張る。その前面に背面用スプリングを設置する。力布の張り込み方法、スプリングの設置方法は座面と同様である。スプリングは、1列に9個が並び、計3列、27個が配置される。スプリングの鋼線径は ϕ 2.7～3.1mmで、らせん数は7巻である。スプリングの前面はジュートで覆われる。背面外周部には藁土手が廻り、縁の下地を形成する。ジュートの前面には白綿を敷き詰

め、その上をウレタンスponジにより覆い、張地を張る。肘掛部は、土台の上に椰子のファイバーを敷きジュートで覆う。その上に黒毛の馬毛、麻布、白綿の順に敷き、最後にウレタンスponジで成形する（図3-19）。

内部詰物については成分分析を実施し¹¹⁾、所見にて馬毛、ジュート、ファイバーと判断した素材は



図3-17 長椅子2背面のフレーム



図3-18 座面力布・スプリング



図3-19 肘掛部

分析においても馬毛、植物繊維であることを確認した。白綿は綿とレーヨン、毛の混紡であった。また、麻布には「General Mills, Inc. SPERRY DIVISION OFFICES, SANFRANCISCO, CALIF.」、「PACIFIC EXPORT FLOUR ENRICHED - BLEACHED」との印刷があり、小麦等の食料品の運搬用の麻袋が転用されていることがわかった。

家具製作仕様さて、長椅子2を製作した大林組工作所は先述したように昭和6年に内外木材工芸に組織替えするが、同年から内外木材工芸の技師長として在籍していた小川安一郎は、家具についての標準仕様を書き残している¹²⁾。先に確認した長椅子2の構造について、この仕様と比較検証し、本長椅子の仕様の妥当性をみてみたい。

小川が記した標準仕様のうち、椅子に関する事項で今回の長椅子と関係する箇所を整理すると以下となる。

- ・長椅子「クッション」附きの場合の座面に用いるスプリングは、太さを11番（φ3.04mm）、ラセン数を7、数量を62とする。
- ・長椅子背面のスプリングは、太さを11～12番（φ2.7mm～φ3.04mm）、ラセン数を7もしくは5、数量を9とする。
- ・力布の幅は2～3インチ（50.8mm～76.2mm）とする。
- ・力布は、スプリングに応じて十文字に木枠へ両端折込釘打ちとする。
- ・スプリング押さえの麻糸は蠶引きまたは油引きの撲固き物を用いる。
- ・スプリングの覆いは粗布を以て表面を包む。
- ・椅子の詰込みものは馬毛、ファイバー、シロ毛、バンパーがあるが、シロ毛とバンパーは下級品のみを使用する。
- ・ファイバーを下敷きとして上覆に馬毛を詰合わすものもある。
- ・馬毛は指定ない限り黒毛を用いる。
- ・裂地または革の上張りを行なう場合は、白綿を充分に敷き込む。

小川は非常に細かに椅子の仕様を記述しており、特に椅子の要となるスプリングに関する仕様は詳細

で、ここで取り上げた長椅子以外でも、小椅子、肘掛椅子、安楽椅子（クッションあり、なし）、長椅子（クッションなし）、肘掛け安楽椅子と椅子種別を細かに分け、それぞれ仕様を定めている。

さて、ここで示された仕様と、長椅子2を比較するとスプリングの数量に相違はみられるものの、その他の事項は驚くほどその仕様が合致していることがわかる。長椅子2は、昭和前期の標準仕様に忠実に作られており、当時の家具制作技術の水準を知る上でも貴重な家具といえよう。

- 1) 「62.3.9」は西暦、昭和年号のいずれを示すか不明であるが、西暦と見た場合は新館工事期間に合致する。
- 2) 石川四郎「渡辺節先生を憶う」『建築家 渡辺節』（大阪府建築士会、1969年）において、石川が旭家具装飾在籍時に、旧正金銀行大阪支店貴賓室の家具を、村野藤吾のデザイン指導のもとクイーンアンスタイルで製作した旨が述べられている。
- 3) 「紡績産業の全盛期を象徴 編業会館を語る」『編業会館の魅力』（向陽書房、1987年）の中で、元日本編業会館部会長の谷口豊三郎、元日本編業会館部幹事の田和安夫の以下の発言が確認できる。「谷口『入ったところのシャンデリア、2階の談話室と会議室、下の食堂、それに椅子がよかったですのですがね、スベインからとり寄せたものでね。』田和『皮張りでね。戦時中に供出させられてしまった。』」
- 4) 渡辺節「編業会館の設計と私」『日本編業会館月報』1969年5月号（日本編業会館部、1969年）
- 5) 清水製作所に関する記述は以下を参考にした。
『時流故正員清水米吉君略歴』『建築雑誌』第443号（日本建築学会、1923年）
俵元昭編『芝家具の100年史』（東京都芝家具商工業協同組合、1966年）
- 6) 大阪市庁舎建築概要』『建築雑誌』第418号（日本建築学会、1921年）
- 7) 『人名別電話番号簿』昭和29年6月1日現在（日本電信電話公社、1954年において、大阪清水製作所の掲載は確認できるが、『職業別電話番号簿』昭和29年9月1日現在（日本電信電話公社、1954年）では掲載は確認できない。昭和29年ころに廃業した可能性が高い。
- 8) 白杉嘉三「渡辺節先生への追憶」前掲2)
- 9) 前掲4)
- 10) 長椅子2の修理内容に関する記述は、修理を実施した株式会社内外テクノス、株式会社大谷賢三商店、株式会社サナダサービスがまとめた以下資料をもとにした。
『編業会館2021年3人掛けソファー修繕 ソファー修繕・作業写真記録』
『編業会館2021年3人掛けソファー修繕 既存木製フレーム実測図・支柱配置図』
(いずれも、2021年11月1日刊行、株式会社内外テクノス・株式会社大谷賢三商店・株式会社サナダサービス)
- 11) 日本編業会館部がボーケン品質評価機構大阪試験センターへ委託し実施した。
- 12) 小川安一郎「家具施工について」『建築と社会』1935年2月号（日本建築協会、1935年）

第4章 結語

1. 編業会館所蔵家具の価値

編業会館所蔵家具について、今回の調査を通じて大きく以下3点が明らかとなった。1点目は、所蔵家具のうち、各室毎に当初から配置されていた家具を特定できた点である。2点目はそれら家具のうちいくつかの種別について、残された図面等資料をもとに製作者を特定できた点である。製作者の選定については、設計者の意図を垣間みることもできた。3点目は、当初配置された家具の竣工後における室間の移動状況や、戦後俱楽部機能を移転した寺田合名ビルからの家具の流入状況や、竣工以降の家具の変化についてもその一端を明らかにした点である。

編業会館所蔵家具のうち当初家具の多くは、渡辺建築事務所がデザインしたものである可能性が高いこともわかった。家具のデザインは各室の室内装飾のスタイルに合わせておこなわれ、いずれも細部まで精緻にデザインされ、高い意匠性を有している。設計者が室内装飾とともに家具のデザインをおこない、そうした家具と室内装飾が一体となり遺存している点に、編業会館所蔵家具の大きな価値をみるこができるだろう。

また、主要家具については、家具・室内装飾分野における当時屈指の会社が製作しており、一部ではあるがその仕様についても当時の標準仕様に忠実に倣い、家具が製作されていることもわかった。先述したように、2階貴賓室、会議室といった最重要ともいえる家具の製作を担った清水製作所は昭和7、8年（1932、1933）を最盛期として昭和11年には廃業に至る。これは、百貨店などの大資本が家具や室内装飾の分野に広く進出したことが影響するとともに、清水製作所が得意とした様式家具の需要のピークが過ぎたことにもよる。すなわち、建築そのものが様式建築からモダニズム建築へと移行していく間であり、その内部の家具も同様の変化が求められたのである。清水製作所に限らず、様式家具を製作していた多くの注文家具商がこの時期廃業に追い込まれたという。編業会館に残された当初家具は、

様式家具製作所のまさに最盛期に作られた家具として、その意匠および技術水準を今に伝え貴重であり、編業会館が様式建築の到達点であるのと同様に、日本における様式家具の到達点のひとつとして位置づけることができる。

2. 今後の保存と修理

当初家具の保存状況については概ね良好で、ただちに修理が必要であるような家具は確認しなかった。また、これまでの修理においても大きな改造はないと思われるが、椅子、安楽椅子、長椅子等については、革張りから布地への変更や、張地張替えがおこなわれている。今後も張地の張替えは劣化状況により定期的に必要となるが、主要室については室内の竣工写真が残っており、当初の張地がどのようなものであったのか、その一端を知ることができる。こうした資料をもとに、復原的に張地の選定を実施することや、当初仕様の革張りに変更をおこなうことも今後可能であろう。いずれにしろ、室内装飾に合致した張地の選択が求められる。

長椅子2は座面のスプリングを連結していた麻紐の破断、力布と連結していた麻糸の破断等により座面が沈み込み、今回修理を実施した。修理では、当初構造や当初材を極力保存することを大きな方針としながら、今後の長期間における使用に耐えうるよう、座面スプリングをすべて撤去し、現在の工法であるSバネ式木製座面に取替えた。その一方、当初材であるスプリングはすべて保存し、将来において復原的に修理がおこなえる状況を確保した。

今後、同様な不具合が他の長椅子で生じたり、また他の不具合が生じ修理が必要となる可能性はある。その場合、今回の修理と同様に、当初の構造、材料を残すことを原則としながら、実用的側面で仕様変更が必要となった場合は、確実な修理記録と当初材の保存等の措置をとり、修理を進める必要がある。また、場合によっては、同一家具の使用を一部制限するなど、当初家具の劣化を緩やかにするための運用面での工夫も必要となるだろう。

重要家具調查票

No.

B1-1

家具種別

サイドボード

配置室名

B1F 5号室

外形寸法 (mm)

W D H
1665 × 460 × 1036

数量

1

記載図面

K-02 ⑥

竣工写真有無

なし

ラベル番号

B.269

製作所



様式	修繕・状態	良好	時期	当初
特記 2-31 と同形状				

No.

B1-2

家具種別

帽子掛

配置室名

B1F 女子更衣室

外形寸法 (mm)

W D H
1205 × 313 × 1825

数量

1

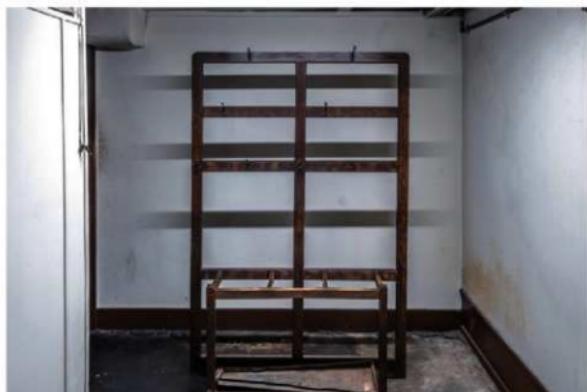
記載図面

K-12

竣工写真有無

なし

ラベル番号



様式	修繕・状態	一部破損	時期	昭和 25 年
特記				

製作所

藤原木工カ

No.

1-1

家具種別

長卓子

配置室名

1F ホール

外形寸法 (mm)

W D H

1982 × 737 × 782

数量

2

記載図面

K-02 ③

竣工写真有無

あり

ラベル番号

A.3・A.4

製作所

大林組工作所



No.

1-2

家具種別

衝立

配置室名

1F ホール

外形寸法 (mm)

W D H

2327 × 559 × 1669

数量

1

記載図面



竣工写真有無

あり

ラベル番号

様式

折衷

修繕・状態

良好

時期

当初

製作所

特記

No.

1-3

家具種別

植木台

配置室名

1F ホール

外形寸法 (mm)

W D H

550 × 532 × 530

数量

2

記載図面

K-02 ④

竣工写真有無

あり

ラベル番号

様式 イタリアルネサンス 修繕・状態

良好

時期

当初

特記 グリーンマーブル大理石

製作所

大林組工作所



No.

1-4

家具種別

腰掛

配置室名

1F ホール

外形寸法 (mm)

W D H

1355 × 360 × 484

数量

2

記載図面

K-02 ④

竣工写真有無

あり

ラベル番号

様式 イタリアルネサンス 修繕・状態

良好

時期

当初

特記 グリーンマーブル大理石

製作所

大林組工作所



No.

1-5

家具種別

長椅子

配置室名

1F ホール

外形寸法 (mm)

W D H

2100 × 898 × 780

数量

2

記載図面

K-02 ②

竣工写真有無

あり

ラベル番号

様式

修繕・状態

張地張替

時期

当初

製作所

大林組工作所



No.

1-6

家具種別

肘掛椅子

配置室名

1F ホール

外形寸法 (mm)

W D H

690 × 900 × 770

数量

8

記載図面

K-02 ①

竣工写真有無

あり

ラベル番号

様式

修繕・状態

張地張替

時期

当初

製作所

大林組工作所



No.

1-7

家具種別

丸卓子

配置室名

1F ホール

外形寸法 (mm)

Φ

H

850 × 640

数量

2

記載図面

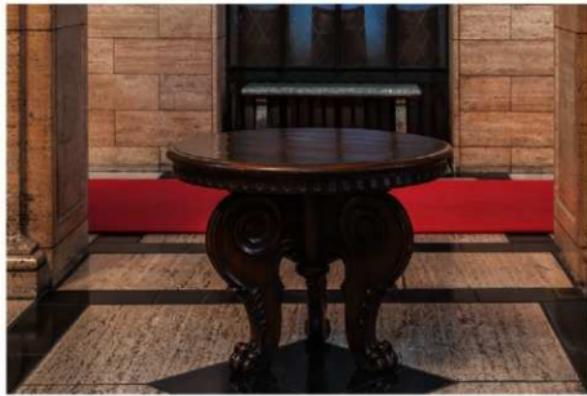
K-02 ⑥

竣工写真有無

あり

ラベル番号

A.5・A.6



様式	イタリアルネサンス	修繕・状態	良好	時期	当初
----	-----------	-------	----	----	----

特記

製作所

大林組工作所

No.

1-8

家具種別

テーブル

配置室名

1F 会員食堂

外形寸法 (mm)

W

D

H

751 × 758 × 728

数量

1

記載図面

竣工写真有無

なし



様式	修繕・状態	良好	時期	当初
----	-------	----	----	----

特記

製作所

No.

1-9

家具種別

テーブル

配置室名

1F 会員食堂

外形寸法 (mm)

W D H

756 × 741 × 739

数量

2

記載図面

竣工写真有無

なし

ラベル番号

ラベルトレ

製作所



様式	修繕・状態	良好	時期	当初カ
特記				

No.

1-10

家具種別

衝立

配置室名

1F 会員食堂

外形寸法 (mm)

W D H

1511 × 328 × 1430

数量

1

記載図面

K-02 ⑧

竣工写真有無

あり

ラベル番号



様式	修繕・状態	良好	時期	当初
特記	当初2・3F 小食堂用			

製作所

No.

1-11

家具種別

丸卓子

配置室名

1F 談話室・喫茶室

外形寸法 (mm)

Φ

H

756 × 556

数量

6

記載図面

K-12

竣工写真有無

なし

ラベル番号

様式

修繕・状態

天板化粧板改修有り

時期

昭和 25 年

製作所

藤原木工カ

特記 7-1 と同形状

No.

1-12 D,E,F,H

家具種別

長椅子 2

配置室名

1F 談話室

外形寸法 (mm)

W

D

H

1975 × 945 × 810

数量

5 (うち当初 4)

記載図面

竣工写真有無

あり

ラベル番号

様式

修繕・状態

当初革張り

時期 当初、昭和 27 年以降

製作所

大林組工作所、
藤原木工カ

特記 パンフット形状により D, E, F, H の 4 タイプ有り。
D は昭和 27 年以降に製作されたものとみられる。



No.

1-13 A~E

家具種別

安楽椅子

配置室名

1F 談話室・喫茶室

外形寸法 (mm)

W D H

980 × 930 × 750

数量

11 (うち当初 7)

記載図面

K-02 ⑧

竣工写真有無

あり

ラベル番号

A.21

製作所

大林組工作所、
藤原本工カ



No.

1-14 A,G

家具種別

長椅子

配置室名

1F 喫茶室

外形寸法 (mm)

W D H

1950 × 910 × 793

数量

3

記載図面

K-02 ⑨

竣工写真有無

なし

ラベル番号



製作所

大林組工作所

様式	修繕・状態	当初革張り	時期	当初、昭和 25 年
特記	バンフット形状、詳細形状により A~E の 5 タイプ有り。 D は寺田合名ビル移転時に製作されたものとみられる。			

特記	バンフット形状により A, G の 2 タイプ有り。			
----	----------------------------	--	--	--

No.

2-1

家具種別

肘掛椅子

配置室名

2F 会議室

外形寸法 (mm)

W D H

535 × 675 × 948

数量

25

記載図面

K-05

竣工写真有無

あり

ラベル番号

B.106 他

製作所

大阪清水製作所



様式	ネオクラシズム	修繕・状態	張地張替	時期	当初
特記	ラベル番号:B.106・B.107・B.109～B.113・B.115・B.116・B.118・B.120～B.125・B.127～B.129・B.132・B.134・B.135				

No.

2-2

家具種別

テーブル

配置室名

2F 会議室

外形寸法 (mm)

W D H

2000 × 1270 × 685

数量

5

記載図面

K-05

竣工写真有無

あり

ラベル番号

B.101～B.104

製作所

大阪清水製作所



様式	修繕・状態	良好	時期	当初
特記				

No.

2-3

家具種別

安楽椅子

配置室名

2F 会議室

外形寸法 (mm)

W D H

665 × 845 × 816

数量

12

記載図面

K-02 ①

竣工写真有無

なし

ラベル番号

様式

修繕・状態

張地張替

時期

当初

製作所

特記 1-6 と同形状

当初は2F 会議室に配置されず



No.

2-4

家具種別

花台

配置室名

2F 会議室

外形寸法 (mm)

W D H

483 × 362 × 883

数量

4

記載図面

K-05

竣工写真有無

あり

ラベル番号

B.136~B.139

様式 ネオクラシズム

修繕・状態

良好

時期

当初

製作所

特記

大阪清水製作所



No.

2-5

家具種別

サイドボード

配置室名

2F 会議室

外形寸法 (mm)

W 1674 × D 440 × H 975

数量

1

記載図面

K-02 ⑧

竣工写真有無

なし

ラベル番号

様式

修繕・状態

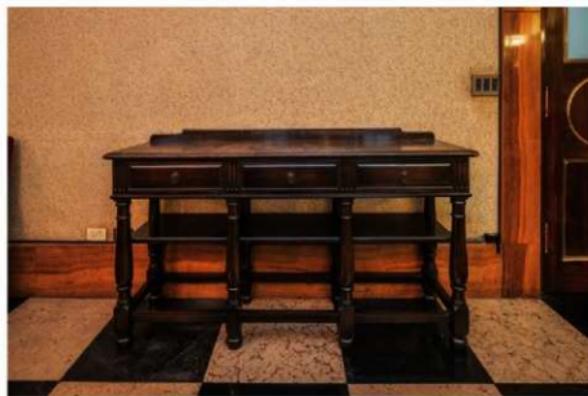
良好

時期

当初

製作所

特記 当初 3F 小食堂



No.

2-6

家具種別

肘掛椅子 2

配置室名

2F 会議室

外形寸法 (mm)

W 595 × D 685 × H 978

数量

5

記載図面

K-02 ⑧

竣工写真有無

あり

ラベル番号

様式

ジャコビアン

修繕・状態

張地張替

時期

当初

製作所

特記 2-8 と同形状

当初は 2F 会議室に配置されず



No.

2-7

家具種別

背付長椅子

配置室名

2F 談話室

外形寸法 (mm)

W D H

1771 × 755 × 900

数量

2

記載図面

K-05

竣工写真有無

あり

ラベル番号

B.5・B.6

製作所



様式	修繕・状態	張地張替	時期	当初
特記				

No.

2-8 A,B,E

家具種別

安楽椅子

配置室名

2F 諸話室

外形寸法 (mm)

W D H

955 × 910 × 835

数量

8

記載図面

K-02 ⑭

竣工写真有無

あり

ラベル番号



様式	修繕・状態	張地張替	時期	当初
特記	パンフット形状により A、B、E の 3 タイプ有り。			

製作所

No.

2-9

家具種別

円卓子

配置室名

2F 談話室

外形寸法 (mm)

Φ

H

602 × 635

数量

5

記載図面

K-02 ⑰

竣工写真有無

あり

ラベル番号

B.11~B.15

製作所



様式	ジャコビアン	修繕・状態	良好	時期	当初
----	--------	-------	----	----	----

特記

No.

2-10

家具種別

肘掛椅子

配置室名

2F 談話室

外形寸法 (mm)

W

D

H

596 × 665 × 980

数量

12

記載図面

K-02 ⑯

竣工写真有無

あり

ラベル番号



様式	ジャコビアン	修繕・状態	当初革張り	時期	当初
----	--------	-------	-------	----	----

特記 2-6 と同形状

製作所

No.

2-11

家具種別

長椅子

配置室名

2F 談話室

外形寸法 (mm)

W D H

2065 × 910 × 802

数量

4

記載図面

K-02 ⑯ A

竣工写真有無

あり

ラベル番号

様式	修繕・状態	当初革張り	時期	当初
特記 パンフット形状は B タイプ				

製作所



No.

2-12

家具種別

長卓子

配置室名

2F 談話室

外形寸法 (mm)

W D H

1818 × 598 × 785

数量

3

記載図面

K-02 ⑯ A

竣工写真有無

あり

ラベル番号

B.1~B.3



様式	ジャコビアン	修繕・状態	良好	時期	当初
特記					

製作所

No.

2-13

家具種別

飾棚

配置室名

2F 談話室

外形寸法 (mm)

W D H
1090 × 453 × 1660

数量

1

記載図面

K-02 ⑧

竣工写真有無

あり

ラベル番号

B.44

製作所



様式	ジャコビアン	修繕・状態	良好	時期	当初
特記					

No.

2-14

家具種別

チェスト

配置室名

2F 談話室

外形寸法 (mm)

W D H
1828 × 770 × 675

数量

1

記載図面

K-02 ⑨

竣工写真有無

なし

ラベル番号



様式	イタリアルネサンス	修繕・状態	良好	時期	当初
特記					

製作所

No.

2-15

家具種別

飾肘掛椅子

配置室名

2F 談話室

外形寸法 (mm)

W D H

660 × 625 × 1288

数量

2

記載図面

K-02 ⑯

竣工写真有無

あり

ラベル番号

B.28

製作所



様式	ジャコビアン	修繕・状態	張地張替	時期	当初
特記					

No.

2-16

家具種別

長卓子 2

配置室名

2F 談話室

外形寸法 (mm)

W D H

1820 × 455 × 786

数量

1

記載図面

K-02 ⑯ B

竣工写真有無

なし

ラベル番号

B.4

製作所



様式	ジャコビアン	修繕・状態	良好	時期	当初
特記					

No.

2-17

家具種別

書記机

配置室名

2F 談話室

外形寸法 (mm)

W D H
1000 × 725 × 800

数量

1

記載図面

K-02 ⑥

竣工写真有無

なし

ラベル番号

B.47

製作所



様式	ジャコビアン	修繕・状態	良好	時期	当初
特記 「田中」の印あり 当初 1F 談話室用					

No.

2-18

家具種別

書記椅子

配置室名

2F 談話室

外形寸法 (mm)

W D H
540 × 570 × 844

数量

1

記載図面

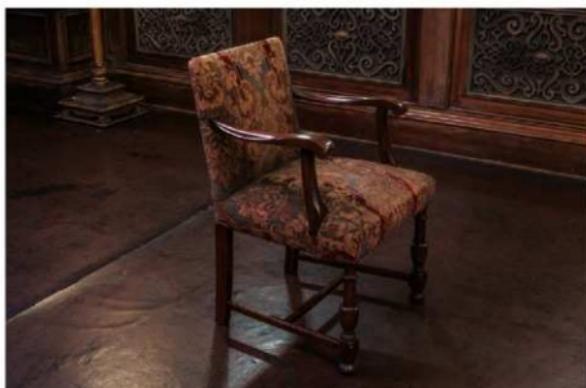
竣工写真有無

あり

ラベル番号

C.64

製作所



様式	ジャコビアン	修繕・状態	張地張替	時期	当初
特記 当初 2F 集会室用					

No.

2-19

家具種別

茶卓子

配置室名

2F 談話室

外形寸法 (mm)

W D H

330 × 330 × 845

数量

1

記載図面

K-02 ②

竣工写真有無

あり

ラベル番号

C.53

製作所



様式	修繕・状態	良好	時期	当初
特記 当初2・3F 小食堂用 2-34、3-2 と同形状				

No.

2-20

家具種別

肘掛椅子 2

配置室名

2F 談話室

外形寸法 (mm)

W D H

566 × 650 × 970

数量

4

記載図面

K-05

竣工写真有無

あり

ラベル番号

A.78・A.79
A.81・A.82



様式	ジャコビアン	修繕・状態	張地張替	時期	当初
特記 当初1F 談話室用					

製作所

No.

2-21

家具種別

円卓子 2

配置室名

2F 談話室

外形寸法 (mm)

Φ

H

600 × 615

数量

2

記載図面

竣工写真有無

なし

ラベル番号

様式

修繕・状態

良好

時期

不明

製作所



No.

2-22

家具種別

長椅子 2

配置室名

2F 談話室

外形寸法 (mm)

W

D

H

2020 × 965 × 810

数量

1

記載図面

K-05

竣工写真有無

なし

ラベル番号

様式

修繕・状態

張地張替

時期 当初から昭和 27 年

製作所



特記 パンフット形状はEタイプ

No.

2-23

家具種別

肘掛椅子

配置室名

2F 貴賓室

外形寸法 (mm)

W D H

617 × 712 × 1100

数量

10

記載図面

竣工写真有無

あり

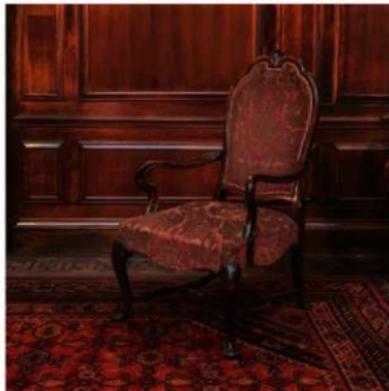
ラベル番号

B.82~B.85

様式	クイーンアン	修繕・状態	張地張替	時期	当初
特記 座面裏に「62.3.9」とあり					

製作所

大阪清水製作所



No.

2-24

家具種別

長机

配置室名

2F 貴賓室

外形寸法 (mm)

W D H

1800 × 1205 × 720

数量

1

記載図面

竣工写真有無

あり



様式	クイーンアン	修繕・状態	良好	時期	当初
特記					

製作所

大阪清水製作所

No.

2-25

家具種別

椅子

配置室名

2F 貴賓室

外形寸法 (mm)

W D H

515 × 593 × 988

数量

4

記載図面

竣工写真有無

あり

ラベル番号

B.86

様式	クイーンアン	修繕・状態	張地張替	時期	当初
----	--------	-------	------	----	----

特記

製作所

大阪清水製作所



No.

2-26

家具種別

長卓子

配置室名

2F 貴賓室

外形寸法 (mm)

W D H

2262 × 480 × 783

数量

1

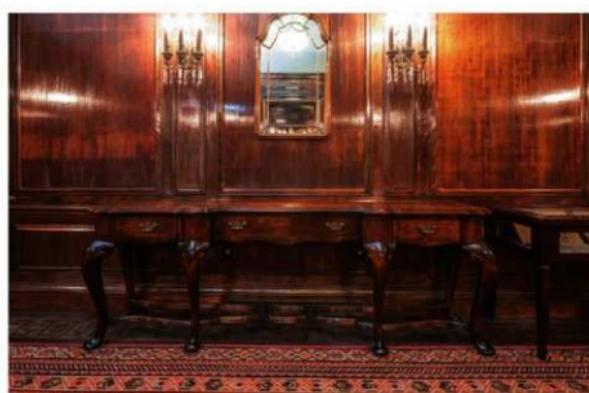
記載図面

竣工写真有無

あり

ラベル番号

B.90



様式	クイーンアン	修繕・状態	良好	時期	当初
----	--------	-------	----	----	----

特記

製作所

大阪清水製作所

No.

2-27

家具種別

書記机

配置室名

2F 貴賓室

外形寸法 (mm)

W D H
1053 × 665 × 843

数量

1

記載図面

竣工写真有無

あり

ラベル番号

B.91



様式	クイーンアン	修繕・状態	良好	時期	当初
特記					

製作所

大阪清水製作所

No.

2-28

家具種別

書記椅子

配置室名

2F 貴賓室

外形寸法 (mm)

W D H
555 × 635 × 835

数量

1

記載図面

竣工写真有無

あり

ラベル番号

B.92



様式	クイーンアン	修繕・状態	張地張替	時期	当初
特記 座面裏に「S60/8/20」とあり					

製作所

大阪清水製作所

No.

2-29

家具種別

花台

配置室名

2F 貴賓室

外形寸法 (mm)

Φ

H

326 × 903

数量

1

記載図面

竣工写真有無

あり



ラベル番号

B.93

様式 クイーンアン 修繕・状態 良好 時期 当初

特記

製作所

大阪清水製作所

No.

2-30

家具種別

卓子

配置室名

2F 貴賓室

外形寸法 (mm)

W

D

H

945 × 395 × 785

数量

1

記載図面

竣工写真有無

あり



ラベル番号

B.94

様式 クイーンアン 修繕・状態 良好 時期 当初

特記

製作所

大阪清水製作所

No.

2-31

家具種別

サイドボード

配置室名

2F 控室

外形寸法 (mm)

W D H

1665 × 455 × 1015

数量

1

記載図面

K-02 ⑧

竣工写真有無

なし

ラベル番号

C.78

製作所



様式	修繕・状態	良好	時期	当初
特記 B1-1 と同形状				

No.

2-32

家具種別

円卓子

配置室名

2F 控室

外形寸法 (mm)

Φ H

457 × 724

数量

1

記載図面



様式	修繕・状態	良好	時期	当初
特記				

製作所

No.

2-33

家具種別

電話台

配置室名

2F 控室

外形寸法 (mm)

W D H

360 × 354 × 915

数量

1

記載図面

竣工写真有無

なし

ラベル番号

C.16

製作所



様式	修繕・状態	良好	時期	当初
特記				

No.

2-34

家具種別

茶卓子

配置室名

2F 控室

外形寸法 (mm)

W D H

330 × 330 × 845

数量

1

記載図面

K-02 ②

竣工写真有無

あり



様式	修繕・状態	良好	時期	当初
特記 当初 2・3F 小食堂用 2-19、3-2 と同形状				

製作所

No.

2-35

家具種別

サイドテーブル

配置室名

2F 道廊

外形寸法 (mm)

W D H

1842 × 628 × 783

数量

2

記載図面

K-02 ⑨

竣工写真有無

あり

ラベル番号

A.77・A.78

製作所



様式	ジャコビアン	修繕・状態	良好	時期	当初
特記	当初 1F 囲碁室、喫煙室				

No.

2-36

家具種別

壁付卓子

配置室名

2F1 号室

外形寸法 (mm)

W D H

1148 × 447 × 859

数量

1

記載図面

K-02 ⑩

竣工写真有無

なし

ラベル番号

C.49

製作所



様式	ジャコビアン	修繕・状態	良好	時期	当初
特記	当初 3F 小食堂				

No.

3-1

家具種別

テーブル

配置室名

3F 俱楽部事務所

外形寸法 (mm)

W D H
892 × 1518 × 755

数量

1

記載図面

竣工写真有無

あり

ラベル番号

C.102

製作所



様式	修繕・状態	良好	時期	当初
----	-------	----	----	----

特記 当初 3F 研究室

No.

3-2

家具種別

茶卓子

配置室名

3F 俱楽部事務所

外形寸法 (mm)

W D H
326 × 330 × 843

数量

1

記載図面

K-02 ⑰

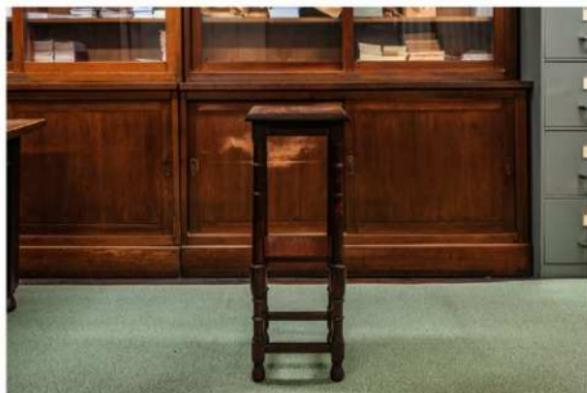
竣工写真有無

あり

ラベル番号

G.31

製作所



様式	修繕・状態	良好	時期	当初
----	-------	----	----	----

特記 当初 2・3F 小食堂用
2-19、2-34 と同形状

No.

3-3

家具種別

サイドテーブル

配置室名

3F 俱楽部事務所

外形寸法 (mm)

Φ

H

360 × 722

数量

1

記載図面

竣工写真有無

なし

ラベル番号

C.18

製作所



様式	修繕・状態	良好	時期	当初カ
特記				

No.

3-4

家具種別

長卓子

配置室名

3F 俱楽部事務所

外形寸法 (mm)

W

D

H

1210 × 395 × 790

数量

1

記載図面

竣工写真有無

なし

ラベル番号

A.52

製作所



様式	ジャコビアン	修繕・状態	良好	時期	当初カ
特記					

No.

6-1

家具種別

肘掛椅子

配置室名

6F ロビー

外形寸法 (mm)

W D H

545 × 655 × 844

数量

36

記載図面

K-05

竣工写真有無

あり

ラベル番号

様式

修繕・状態

張地張替

時期

当初

製作所



No.

6-2

家具種別

小卓子

配置室名

6F ロビー

外形寸法 (mm)

W D H

660 × 295 × 595

数量

9

記載図面

K-05

竣工写真有無

あり

ラベル番号

様式

修繕・状態

時期

当初

製作所



No.

6-3

家具種別

肘掛長椅子

配置室名

6F ロビー

外形寸法 (mm)

W D H

1685 × 685 × 800

数量

2

記載図面

K-05

竣工写真有無

あり

ラベル番号

F.766・F.767

製作所



様式	修繕・状態	張地張替	時期	当初
特記				

No.

6-4

家具種別

卓子

配置室名

6F ロビー

外形寸法 (mm)

W D H

1608 × 440 × 780

数量

2

記載図面

K-05

竣工写真有無

あり

ラベル番号

F.722・F.768

製作所



様式	修繕・状態	良好	時期	当初
特記				

No.

6-5

家具種別

花台

配置室名

和室・前室・廊下

外形寸法 (mm)

W D H
300 × 300 × 845

数量

1

記載図面

K-02 ②

竣工写真有無

あり

ラベル番号

様式

修繕・状態

一部補強あり

時期

当初

製作所

特記 当初 2F 中食堂



No.

7-1

家具種別

円卓子

配置室名

RF 塔屋 ゴルフ練習場・準備室

外形寸法 (mm)

Φ H
755 × 543

数量

1

記載図面

K-12

竣工写真有無

なし



ラベル番号

様式

修繕・状態

良好

時期

昭和 25 年

製作所

特記 1-11 と同形状

藤原木工

No.

7-2

家具種別

帽子掛け

配置室名

RF 塔屋 ゴルフ練習場・準備室

外形寸法 (mm)

W D H

1360 × 263 × 1752

数量

1

記載図面

K-12

竣工写真有無

なし

ラベル番号

様式

修繕・状態

良好

時期

昭和 25 年

製作所

藤原木工カ



No.

S2-1

家具種別

碁笥台

配置室名

新館 2F 娯楽室

外形寸法 (mm)

W D H

268 × 455 × 589

数量

2

記載図面

竣工写真有無

なし

ラベル番号

A.135・A.136

様式

修繕・状態

良好

時期

当初カ

製作所



No.

S2-2

家具種別

基盤台

配置室名

新館 2F 娯楽室

外形寸法 (mm)

W D H
273 × 456 × 590

数量

1

記載図面

竣工写真有無

なし

ラベル番号

A.138

製作所



様式	修繕・状態	良好	時期	当初カ
特記				

No.

S2-3

家具種別

基盤台

配置室名

新館 2F 娯楽室

外形寸法 (mm)

W D H
632 × 495 × 377

数量

3

記載図面

竣工写真有無

なし

ラベル番号

A.125・A.127
・A.131

製作所



様式	修繕・状態	良好	時期	当初カ
特記				

No.

S2-4

家具種別

将棋台

配置室名

新館 2F 娯楽室

外形寸法 (mm)

W D H

487 × 456 × 474

数量

1

記載図面

竣工写真有無

なし

ラベル番号

A.133

製作所



様式	修繕・状態	良好	時期	当初カ
特記				

No.

S2-5

家具種別

円卓

配置室名

新館 2F 娯楽室

外形寸法 (mm)

W D H

2575 × 1293 × 701

数量

1

記載図面

竣工写真有無

なし

ラベル番号

C.1

製作所



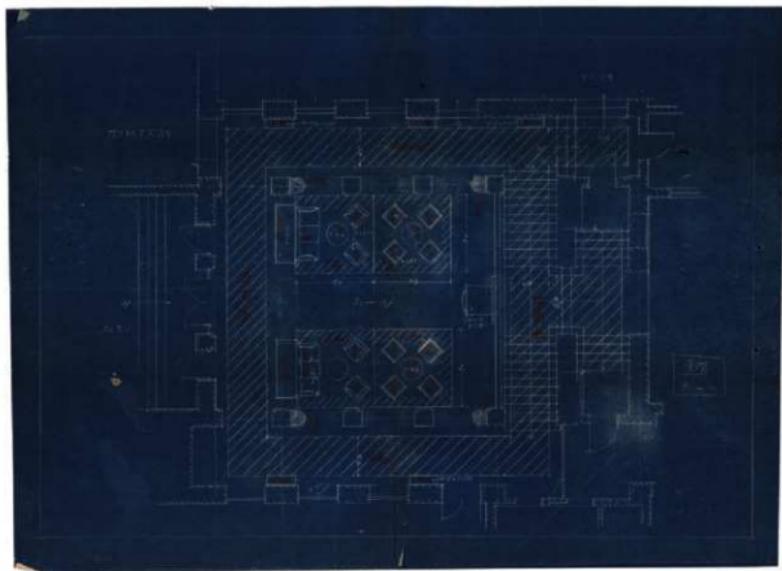
様式	修繕・状態	良好	時期	当初カ
特記				

卷 末 図 版

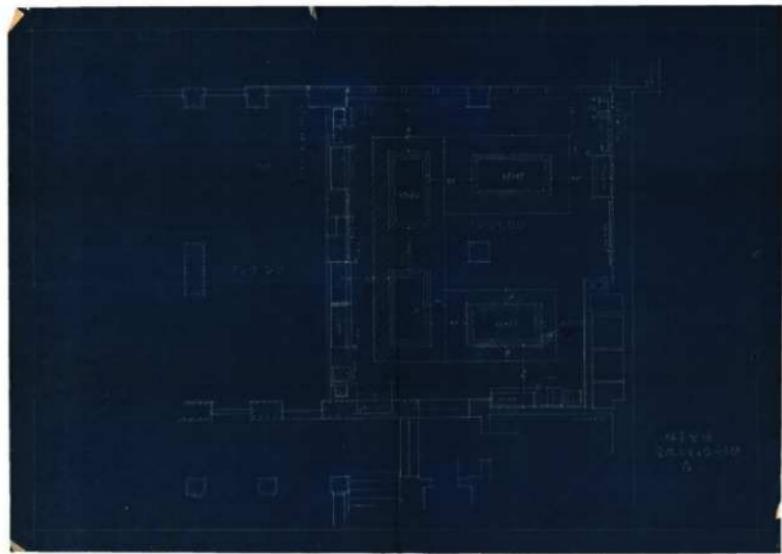
図面 K-01 1 - 16

図面 K-02 17 - 46

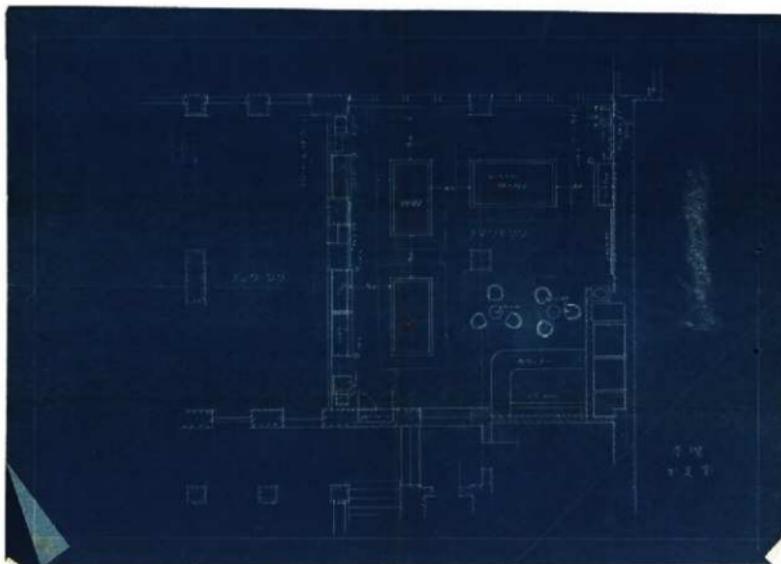
竣工写真 47 - 52



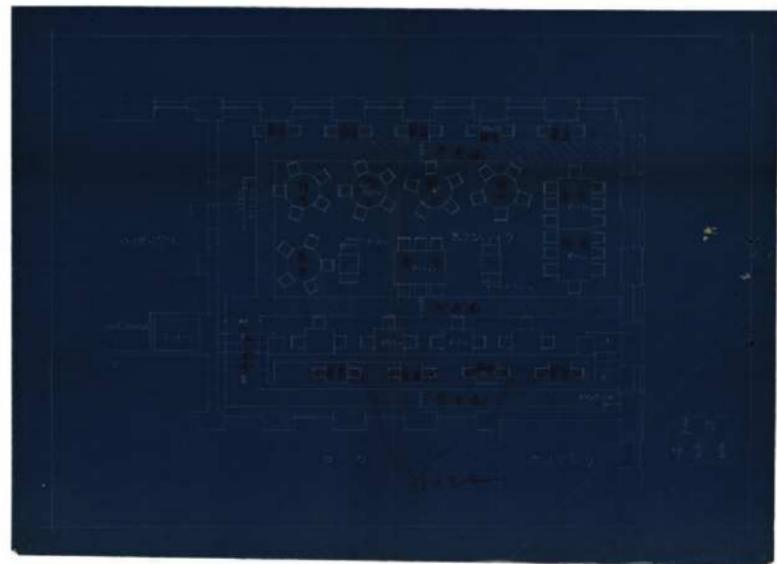
1 図面 K-01 壱階 ホール



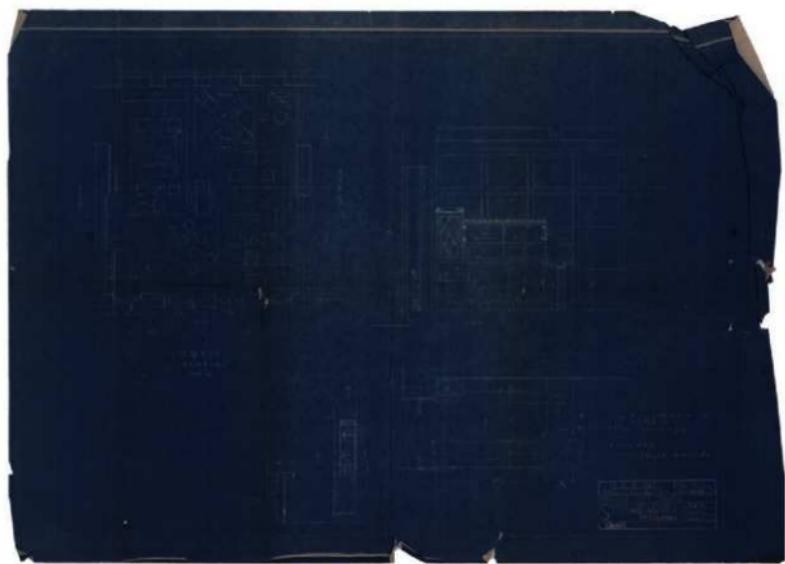
2 図面 K-01 壱階 玉突キ室



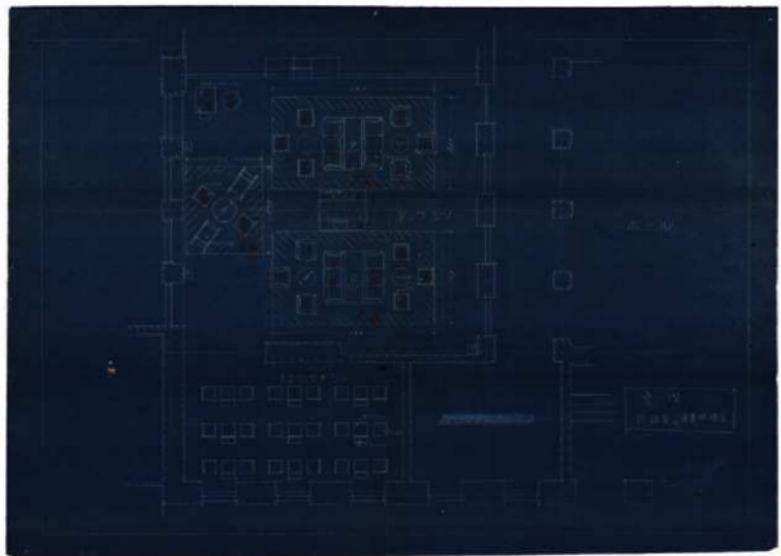
3 図面 K-01 地階 玉突室



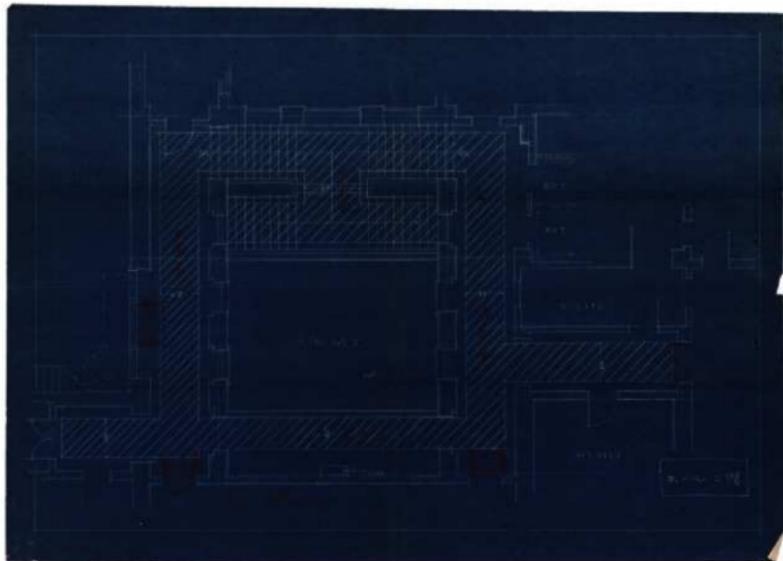
4 図面 K-01 地階 中食堂



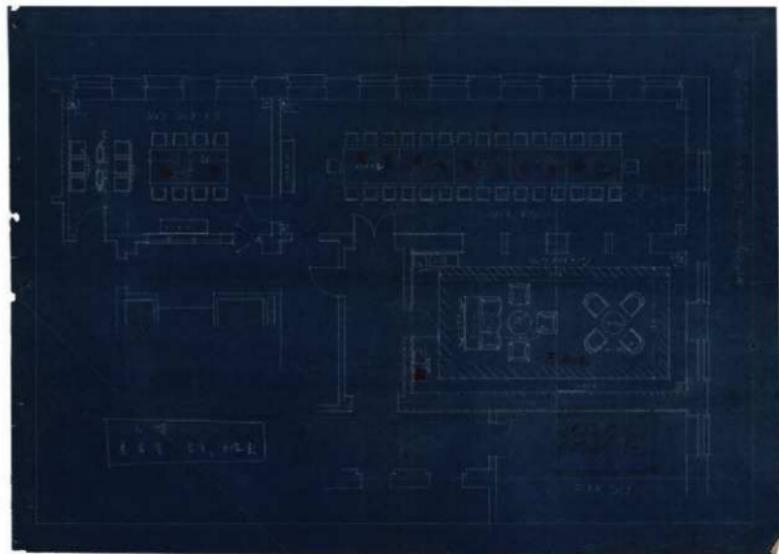
5 図面 K-01 壱階 談話室



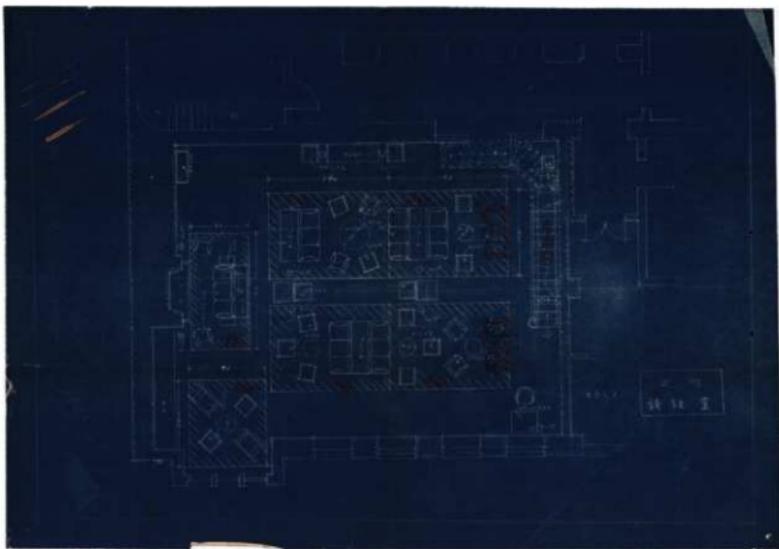
6 図面 K-01 壱階 談話室及囲碁将棋室



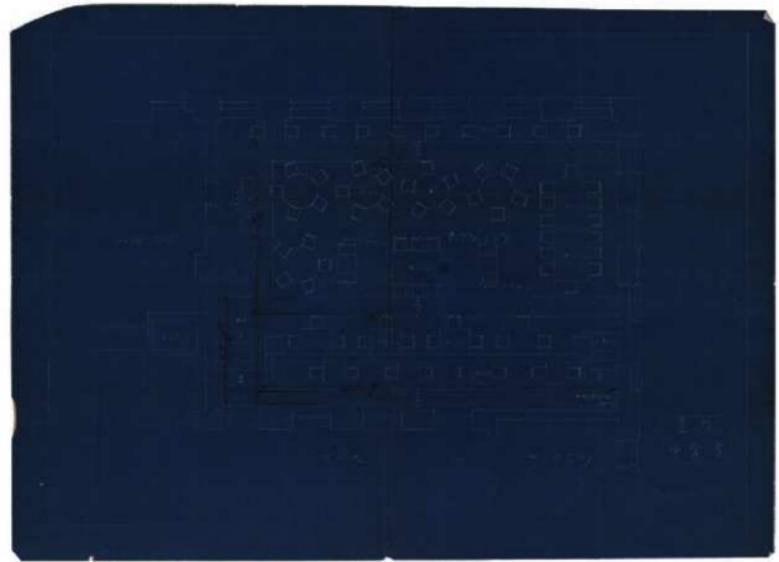
7 図面 K-01 ホール二階



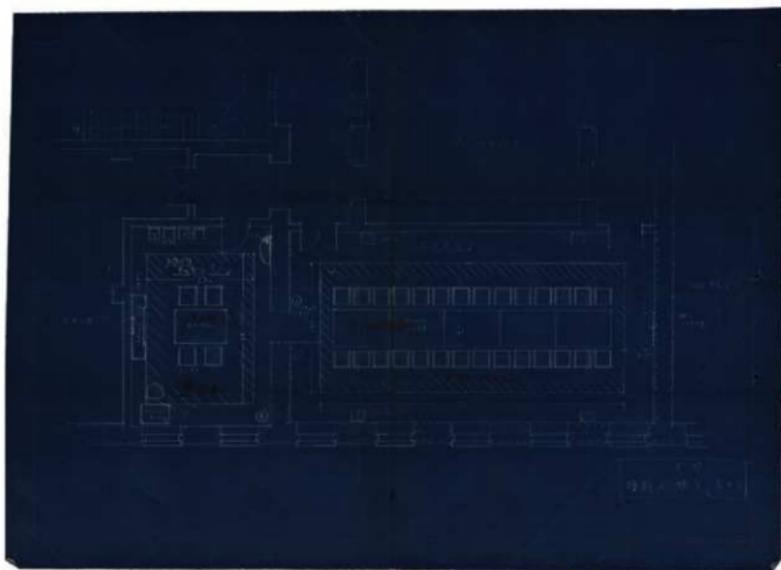
8 図面 K-01 武階 集会室、食堂、小食堂



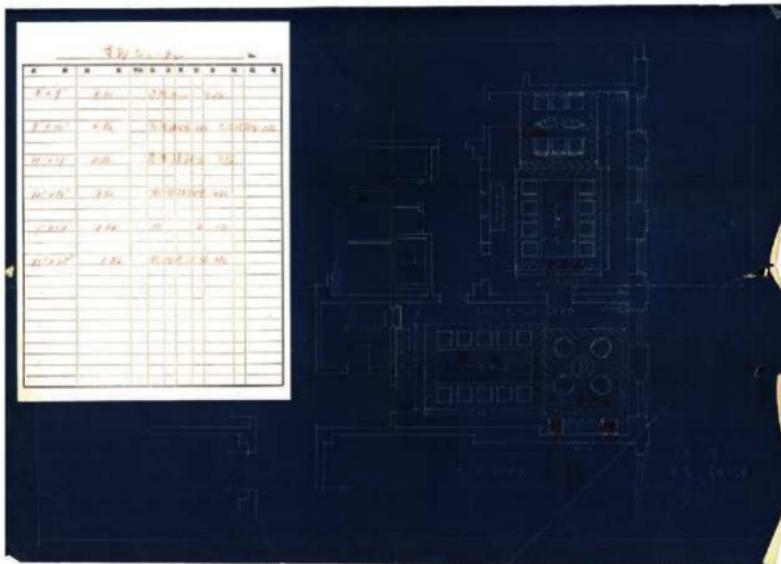
9 図面 K-01 武階 談話室



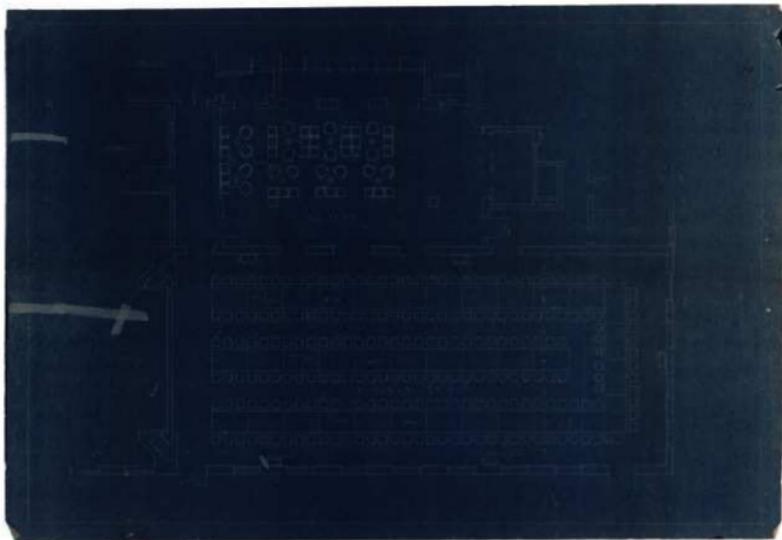
10 図面 K-01 壱階 中食堂



11 図面 K-01 2階 特別応接室及会議室



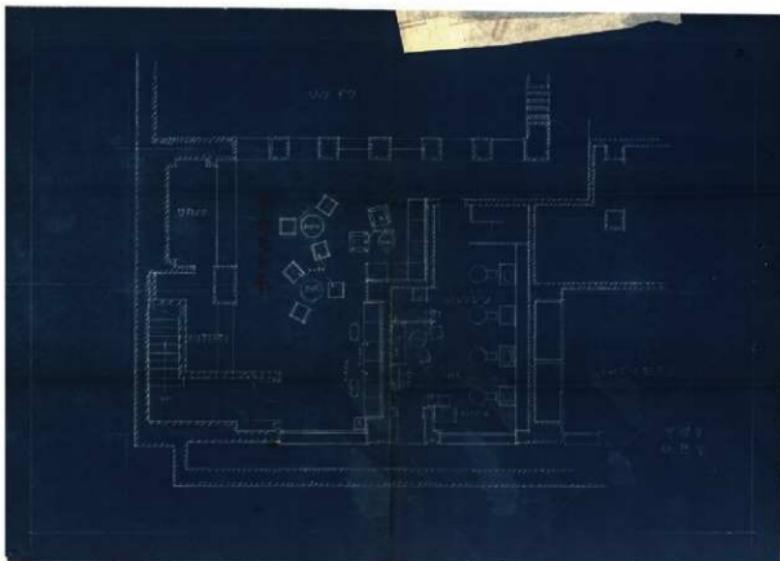
12 図面 K-01 3階 食堂及応接兼食堂



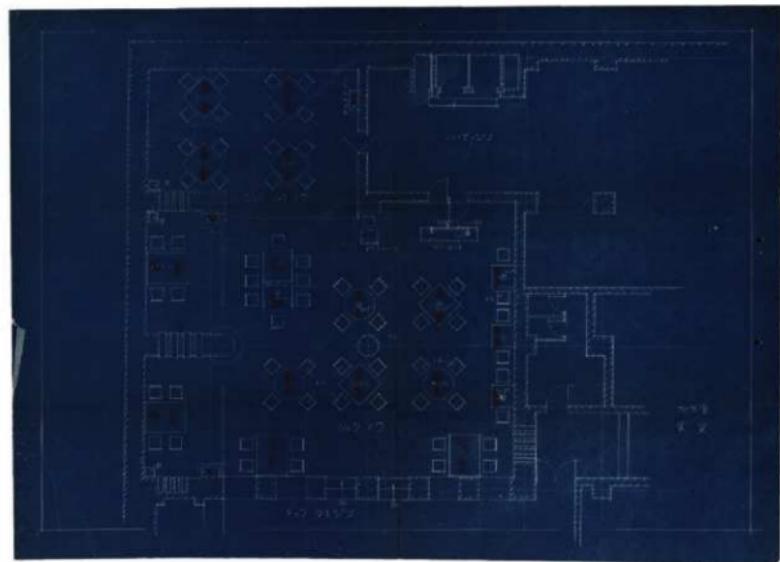
13 図面 K-01 六階 大食堂



14 図面 K-01 六階 大食堂



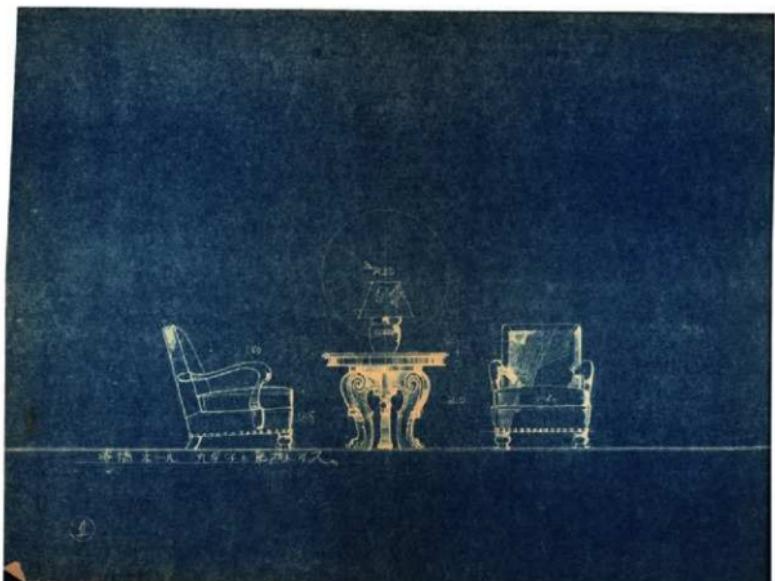
15 図面 K-01 地階室 休憩室



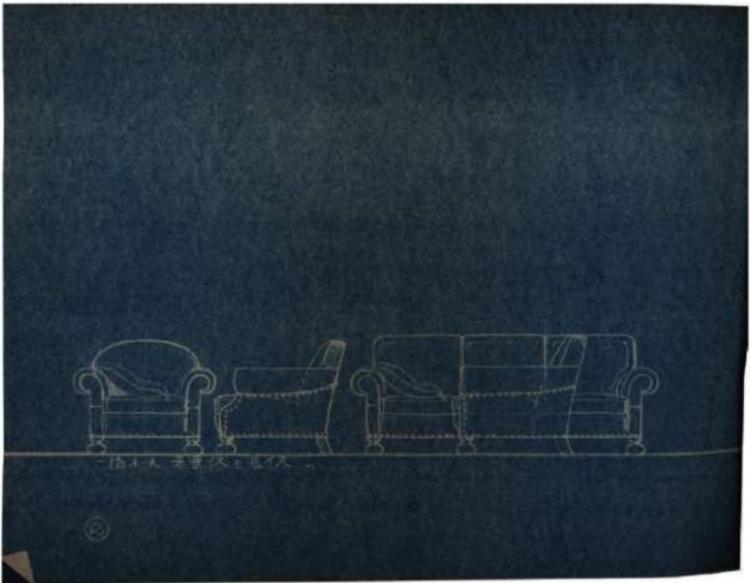
16 図面 K-01 地階室 食堂



17 図面 K-02 家具設計図 表紙



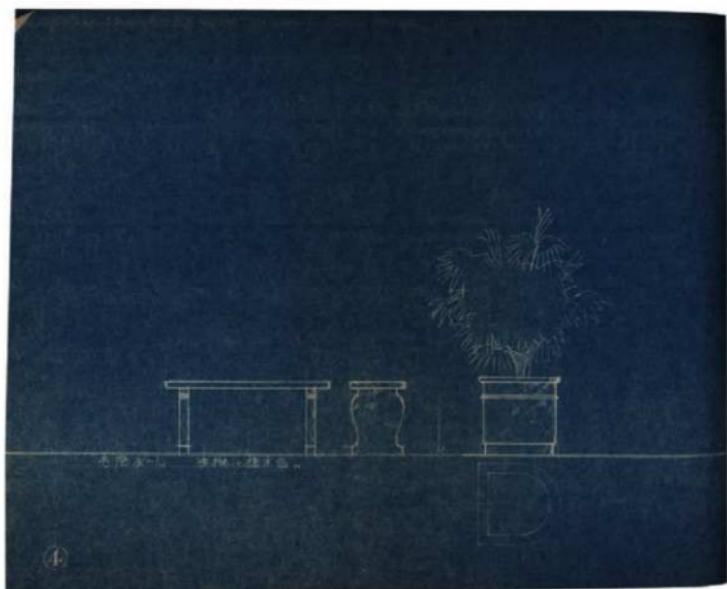
18 図面 K-02 ① 巻階ホール 丸卓子と肘掛イス



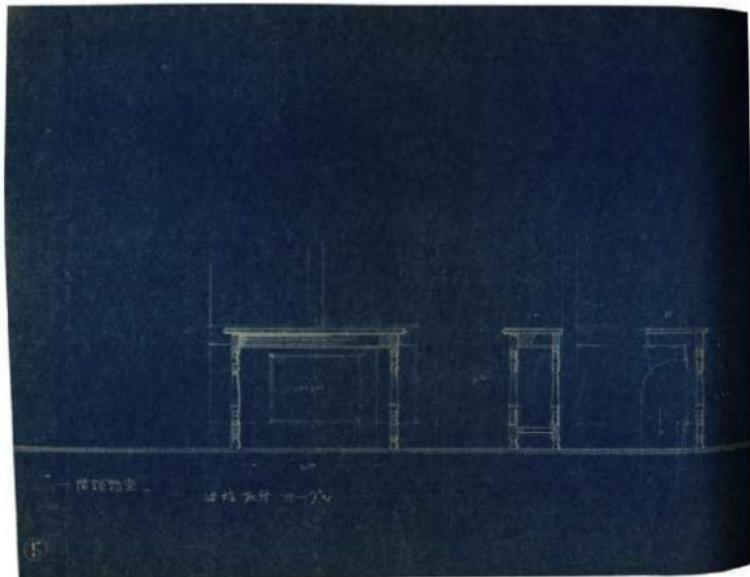
19 図面 K-02 ②一階ホール 安楽イスと長イス



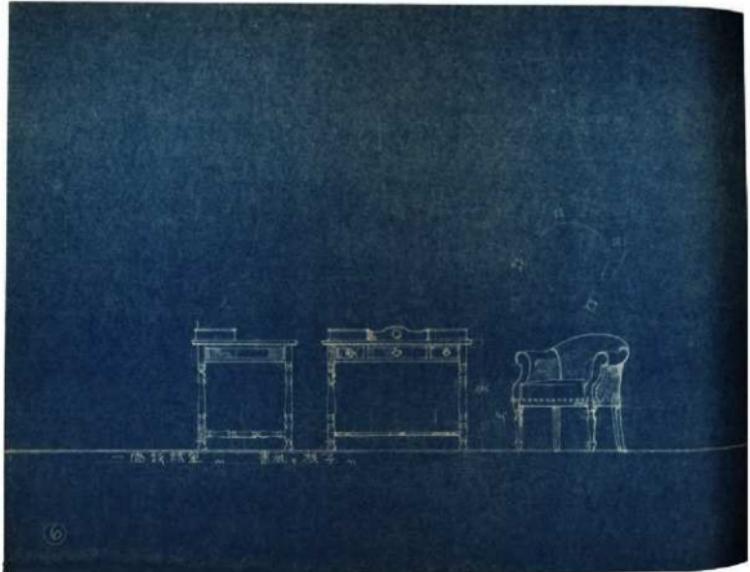
20 図面 K-02 ③一階ホール 長卓子



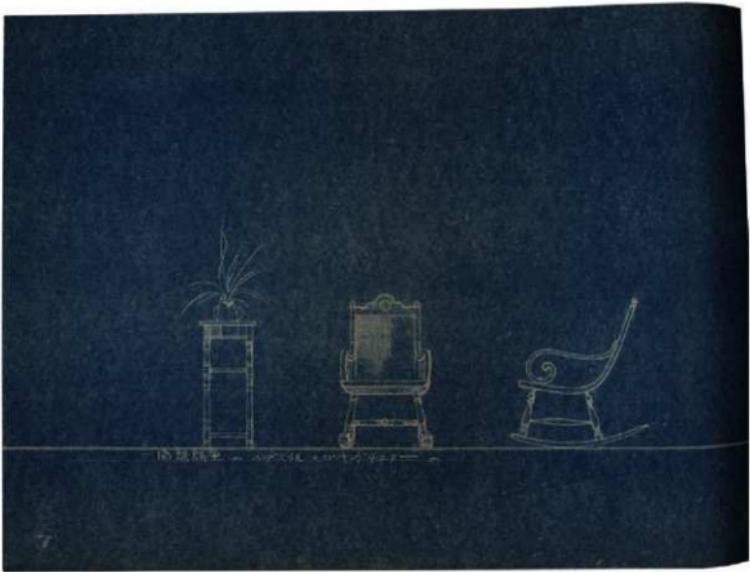
21 図面 K-02 ④ 壁階ホール 腰掛と植木台



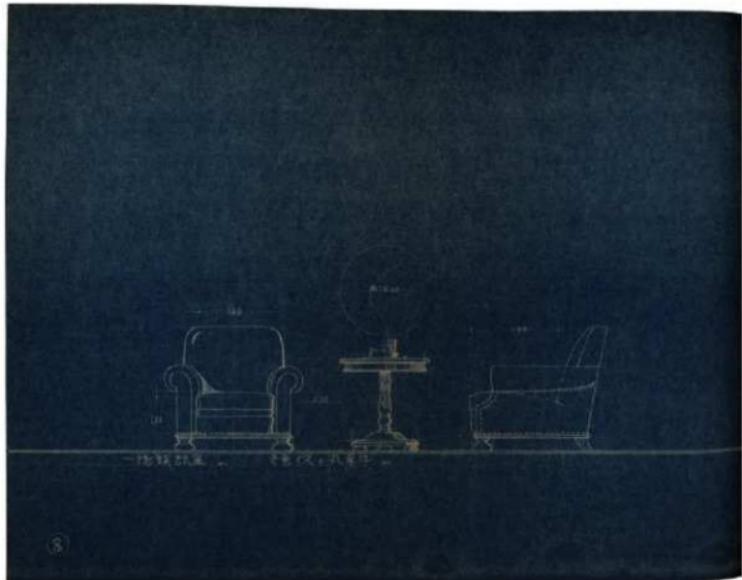
22 図面 K-02 ⑤ 一階談話室 中柱取付テーブル



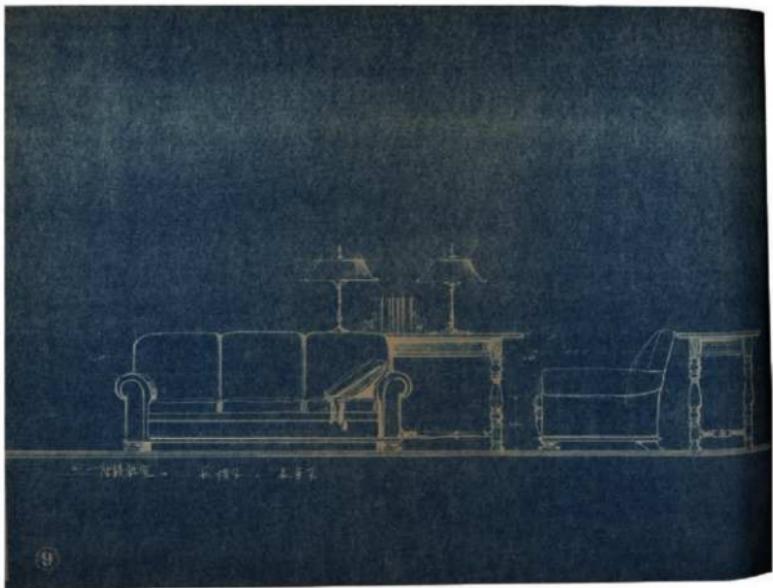
23 図面 K-02 ⑥一階談話室 書机と椅子



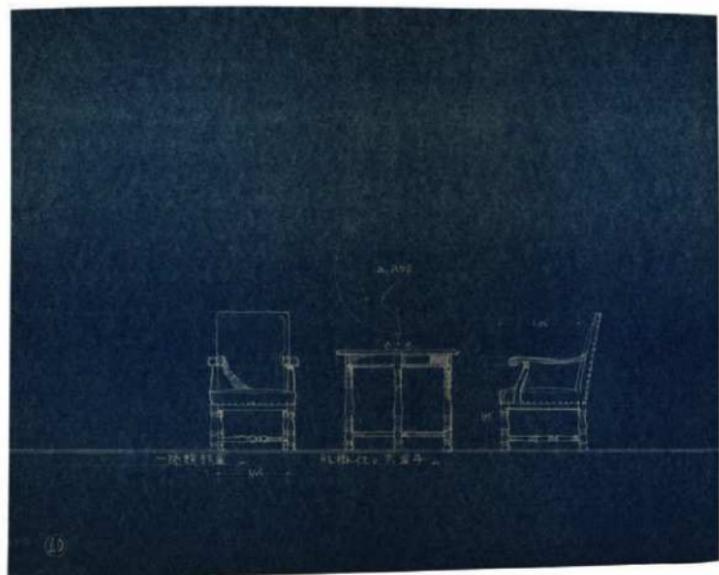
24 図面 K-02 ⑦一階談話室 ベデスタイルとロッキングチェア



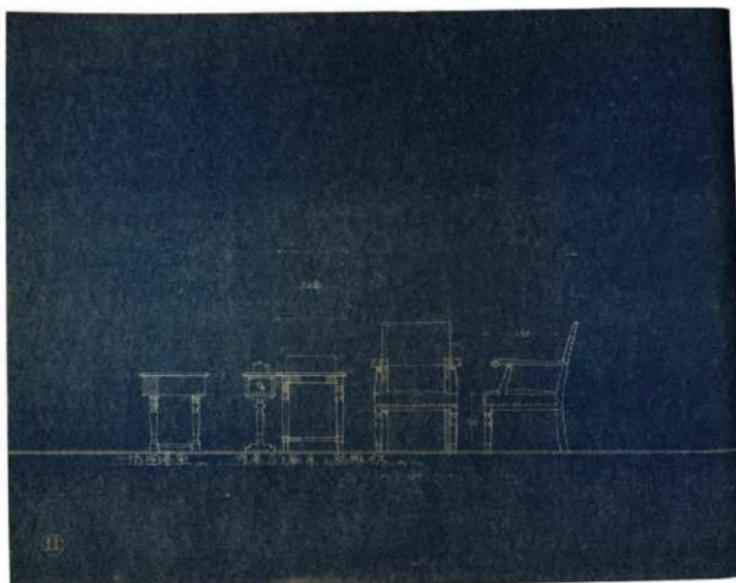
25 図面 K-02 ⑧一階談話室 安楽イスと丸卓子



26 図面 K-02 ⑨一階談話室 長椅子と長卓子



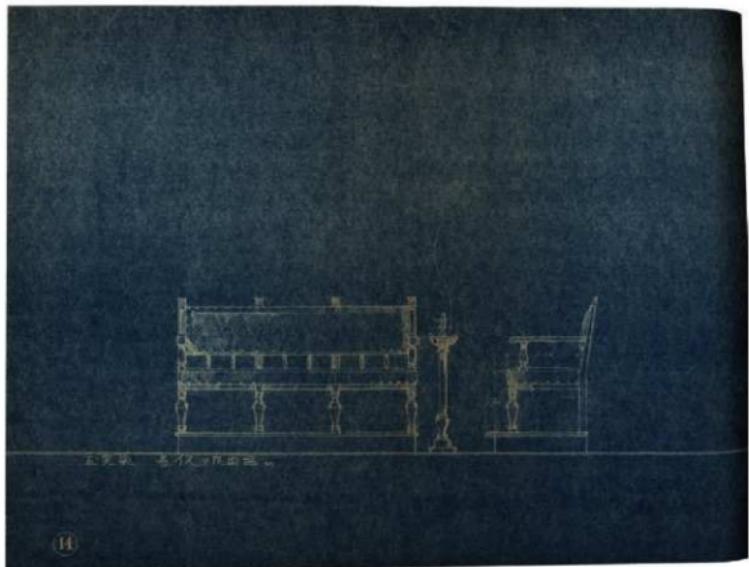
27 図面 K-02 ⑩ 一階談話室 肘掛イスと丸卓子



28 図面 K-02 ⑪ 一階囲碁室 将棋台と脇卓と肘掛イス



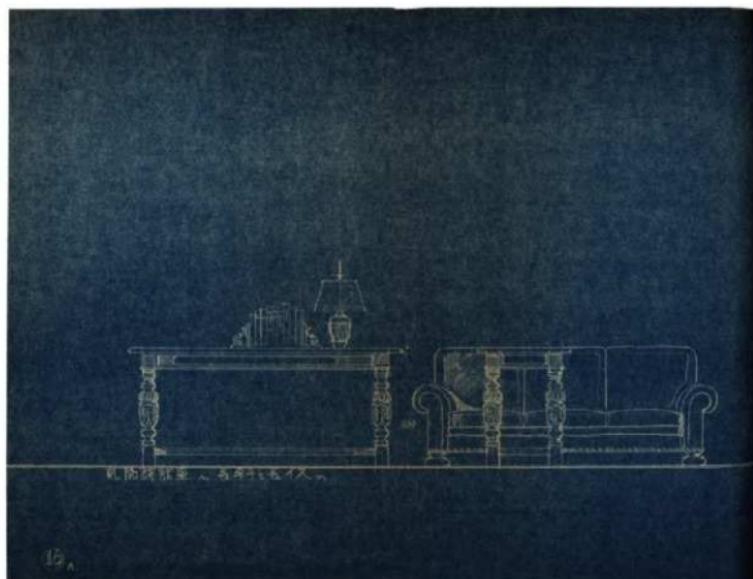
29 図面 K-02 ⑫ 壁階中食堂 サイドボードと小イス



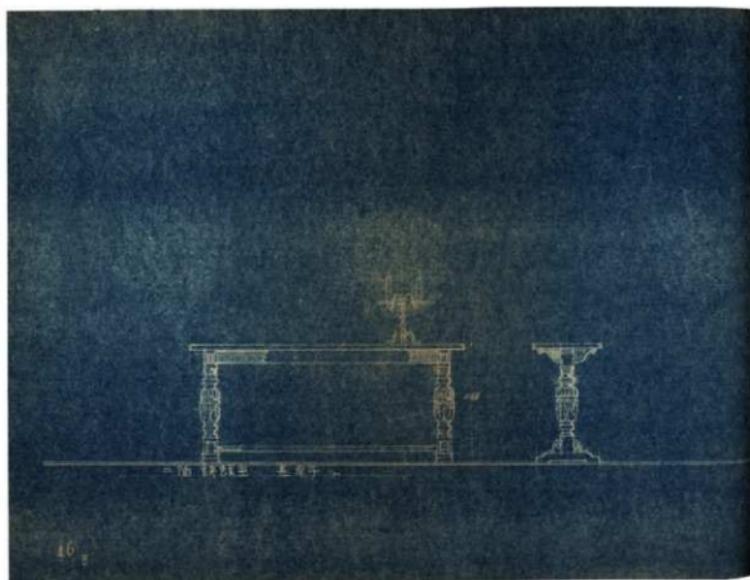
30 図面 K-02 ⑬ 玉突室 長イスと灰皿台



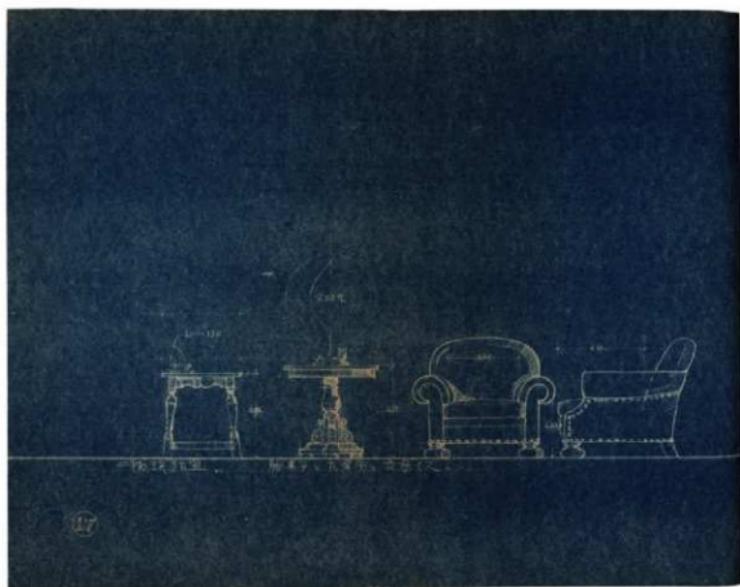
31 図面 K-02 ⑯ 壱階酒場 肘掛けイスと卓子



32 図面 K-02 ⑯ A 武階談話室 長卓子と長イス



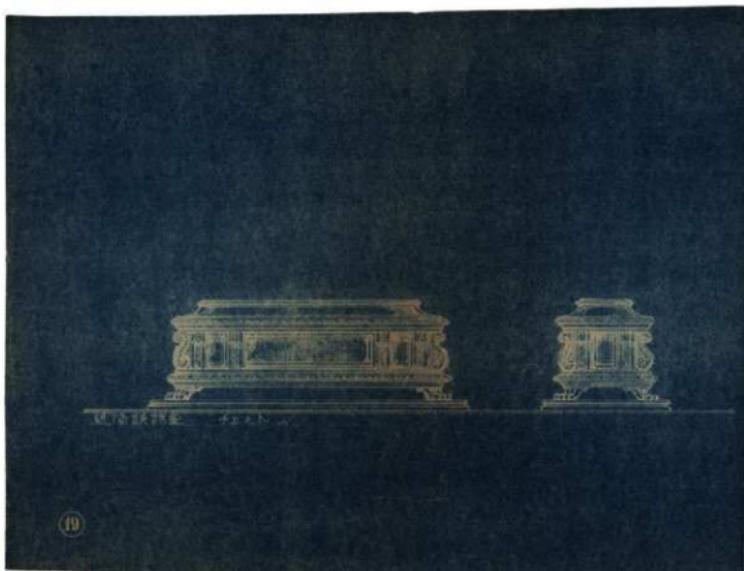
33 図面 K-02 ⑯ B 二階談話室 長卓子



34 図面 K-02 ⑰ 二階談話室 脇卓子と丸卓子と安楽イス



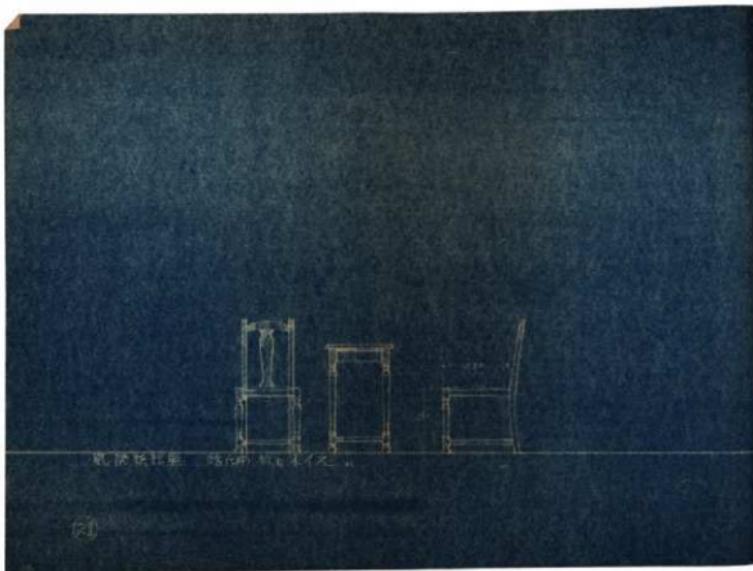
35 図面 K-02 ⑩ 武階談話室 中柱横飾イスと飾イス



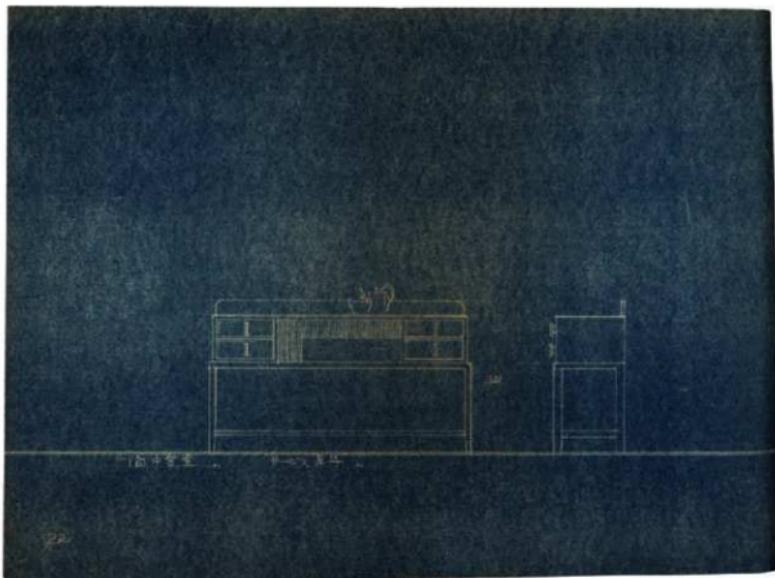
36 図面 K-02 ⑪ 武階談話室 チェスト



37 図面 K-02 ⑩ 武階談話室 大丸卓子と飾棚と肘掛イス



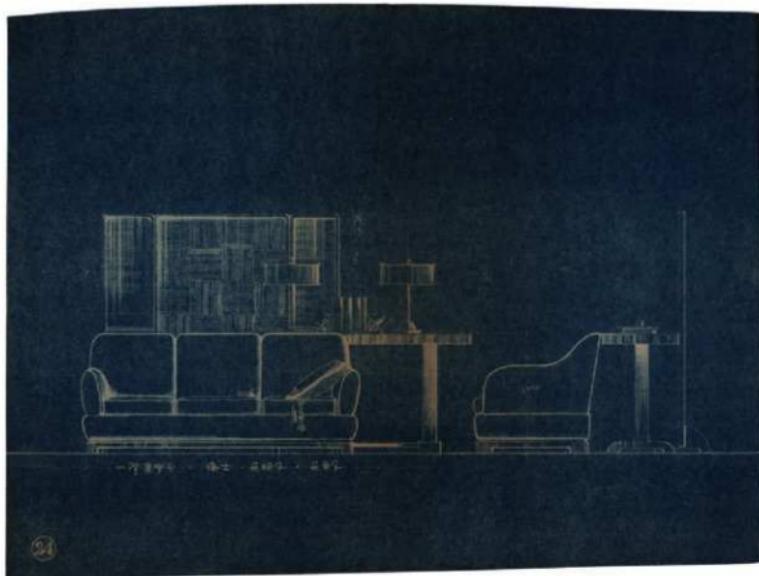
38 図面 K-02 ⑪ 武階談話室 給仕用机と小イス



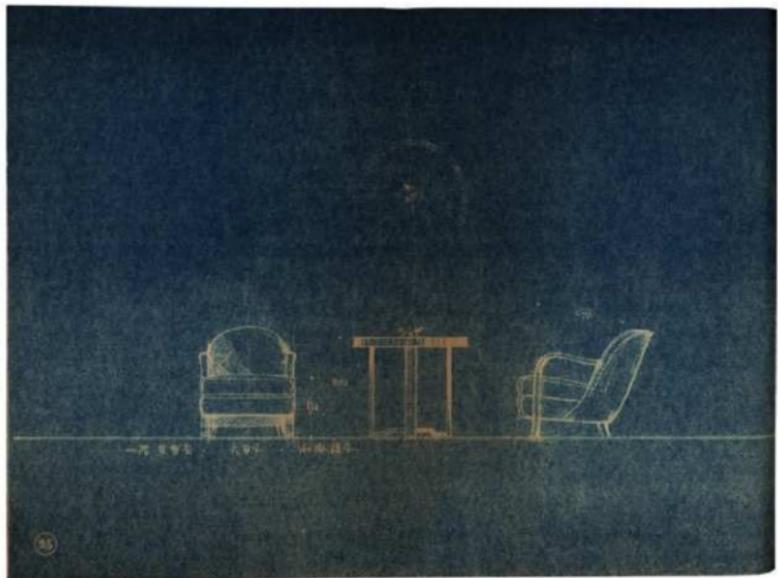
39 図面 K-02 ② 二階中食堂 サービス卓子



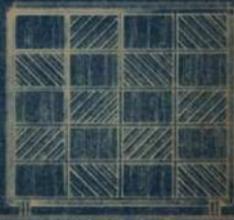
40 図面 K-02 ③ 二階中食堂 ベデスタル・小椅子 (二階集会室と同型)



41 図面 K-02 ②二階集会室 衛立・長椅子・長卓子



42 図面 K-02 ②二階集会室 丸卓子・肘掛椅子



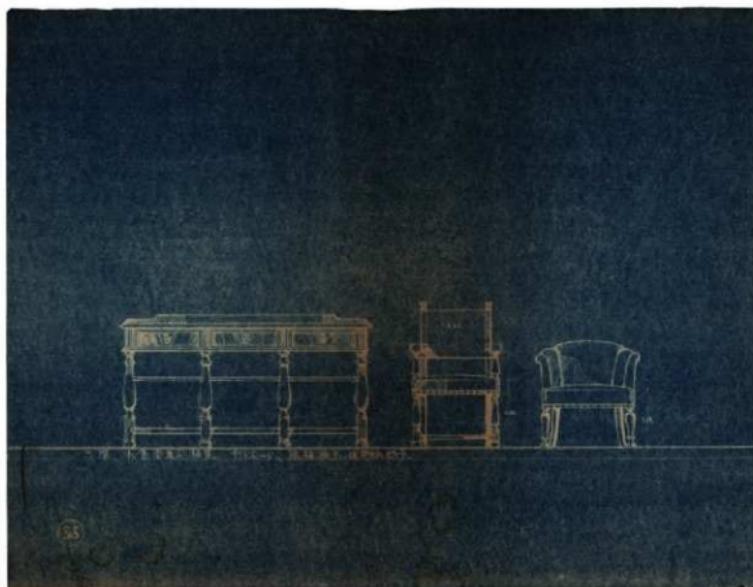
26

43 図面 K-02 ② 二階三階小食堂 衝立・サイドボード（東南隅／分）

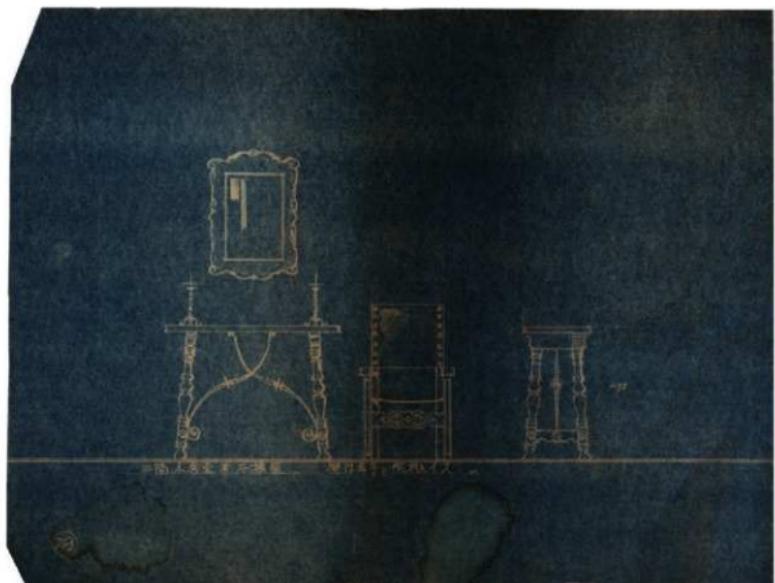


27

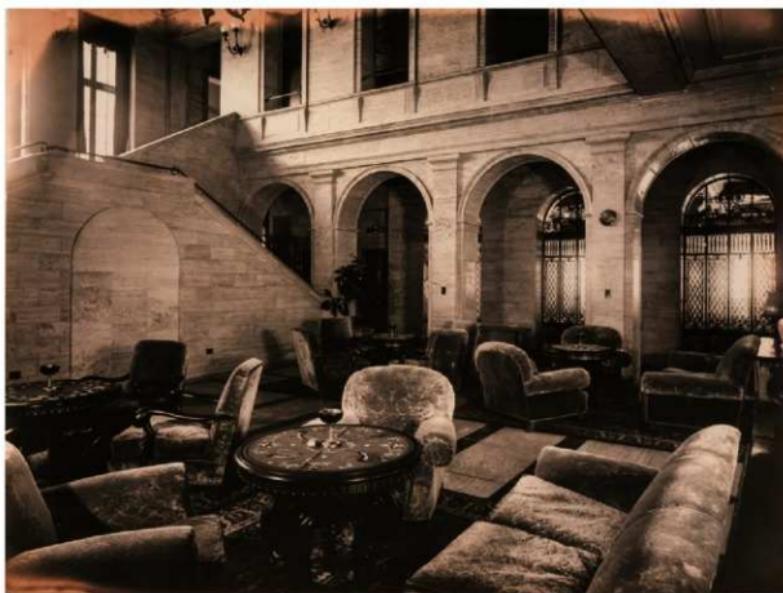
44 図面 K-02 ③ 二階三階小食堂 ベデスタルと茶卓子と肘掛椅子と灰皿台（東南隅／分）



45 図面 K-02 ⑩ 三階小食堂兼応接室 サイドボードと肘掛椅子と休憩用椅子



46 図面 K-02 ⑪ 三階小食堂兼応接室 壁付卓子と肘掛イス



47 基工写真 1階 ホール



48 基工写真 1階 談話室



49 竣工写真 2階 談話室



50 竣工写真 2階 貴賓室



51 竣工写真 2階 会議室



52 竣工写真 6階 ロビー

重要文化財 紹業会館 家具調査報告書

2022年3月31日 発行

- 発 行 一般社団法人 日本紹業俱楽部
〒541-0051 大阪府大阪市中央区備後町2丁目5番8号
独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
〒630-8577 奈良県奈良市二条町2丁目9番1号
- 編 集 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
- 印 刷 能登印刷株式会社
〒920-0855 石川県金沢市武藏町7番10号

ISBN 978-4-909931-76-4

※都合により本PDFでは一部の図面は非表示としています。

